836
209
3

艸草年録

鬼報録 九十六

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

鬼報録第九輯

目録

妙見櫻嶺
三佛生對戰

一 妙見三佛生戦第一編 五月十三日
二 坂西廣見寄其家第書 五月十二日付
三 尾藩人之説話
四 近藤元太郎説話聞書
五 怪我人 河原隊長親書 五月十五日朝
六 渋谷玄仙容体書 五月十五日
七 武敏自北越陣中来書 五月十三日夕
八 北越在陣金児氏書状 五月十日
九 又 五月十日
十 紀南自五月十八日 至六月二日
十一 夫亭話 五月十九日所聞
十二 津田源五郎手書 五月十八日
十三 長岡賊徒人數配下安井某説
十四 五月十九日千谷發足市兵衛説
十五 金子隊士佐久良兵衛
十六 斎藤仙治死生分 五月廿日
十七 堀内莊作書状 五月十九日着
十八 高田惣次郎自北越陣中筆記 五月十九日

大正 9. 5. 27 購求

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

長岡落城

㉙ 阪西某 與其家系書 五月廿一日

㉚ 金井清人部寄奇藤新藏書 五月廿一日

㉛ 相澤龍寄高田豊書 五月廿四日

㉜ 北陣阪西某手簡 五月廿四日

㉝ 五月廿二日付相澤氏之書狀

㉞ 寺内又左衛門達本藩死傷姓名

㉟ 尾藩佐藤傳蔵本長岡猛中ノ通觸記

㊱ 六月朔日紀南三條

㊲ 同上野村隆平之書 〃

㊳ 又

㊴ 奈良井村夫孝大作申狀 久保孝南紀南

㊵ 北越在陣竹全 一云矢助 書簡抄 五月廿九日

㊶ 紀南 並長岡降人姓名

㊷ 武敖白北陣中書書 五月廿八日

㊸ 月廿九日長岡ノ某氏書狀

㊹ 北越在陣金児銃頭寄寄書 五月廿九日

㊺ 武敖長岡ノ来書 全月日

㊻ 関山藤三郎自北越陣寄其家ノ書 五月晦日

㊼ 村上老侯ノ

長岡城図附

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

（一）紀州見三仏生戦争一条

十月十三日夕七時頃より敵陣中より四斤小ク着弾筆ヲ倒後ニ已ニ弾薬ヲ費ス事九一万発ニも達シ運輸者ク係ル者ヲ使ヒ尚ホ足ラサルヲ故ナリ

基地ヲ襲所軍蔵ノ法ハ第一ニ大ンの創レ所ニテ即チ我鎮城轟ニ至ル法ニ依ラス之ヲ感佐ニ不利ノ地ニ入ル危害不一ノ則也

小ク八十一日晩五時過ヨリ三千余の山上ヨリ妙見ヲ望ム敵の砲火電光のめく云ふ如シ

十四日ヨリ風雪ニシテ寒気甚シク十万ル声我ヲ止ル而已ナラス之ヲ迎ル為ニ

十五日午後雪俄ニ甚敷ク仮令ヒ我ニ精兵アリトモ其設ケ無ケレハ之ヲ防ク事能ハス

ふゞし

十一日敵吉村ノ一本隊川ヲ渡リ東ヘ

十二日諸軍ノ陣営悉ク引揚ケ千谷ニ引キ揚ケ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

洪水故大砲小而
岸に多ふ後
得放降水は
故一の敵

㊁坂西廣見富其家負書　五月十二日

五月十日會賊長岡勢越州妙見白石辺ニ陣取尾州上田飯山複峠ニ陣取賊軍十日昼七ツ時陣所ヨリ半里程進出大小銃打出右三藩ヲ攻合ニ及御家之勢小薬(ショヤク)ヲ操出シ大小銃撃發夜ニ入ツ半時互ニ止ル勝敗未タ五月十日曉ニ至時ヲ右場所ニテ戦妙見ニ火之手四ツ半時見ユ依之敵敗北ヲ察ス小出島ヲ隊五月十日大白川ヨリ一里半程出テ戦ヲ待ツ○長岡者弥ヲ手拂ヲお受しの儀ニ付テ○新發田村松ヲ勤王之志事ヲ以テ

五月十二日

㊂尾藩人之説話　當十五日早追ニ當所通行

二

榎峠ヨリ佐吉之賊徒妙見山ヨリ薩長之兵ヲ大小銃ヲ下しの故大不都合、

（リ）竹見山三仏生戦地図

白状ニ而同人為案内其近村之者ニ而掘出サセ申候

此書付御次ニ備ル事

（ヌ）近藤元太郎説話写書　富永氏所手紀写

当十三日八時過小千谷出立早駕籠ニ而一昨十五日夜中着、途中降続後故何卒ニ而取ル十三日者天気ニ宜敷早朝ニ打合初ル最薩長損ニ多分有之、舟ニ而断相後ニ付四五人ニ而始終相連ル此度ニ而ハ九ツ半過ニ舟為物見尾蔭両士ニ而漕ニ而今新潟ニ着ス屋敷ニ一泊ニ而十四日昼ニ舟ニ而出ス十四日昼ニ而押通ル不

味方大ニ困ルニ見山ニ後ニ追ニ而見之渡場ニ而妙見之渡場ニ而後ニ居ルとの戦ニ而、薩長ニ而ハ雑ニ而、薩長ニ而ハ得失中ニ出之迫ニ而ハ

若い者弥助ニ而ハ

信州松代者ニ而ハ

落去不一の有様見

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

鬼報録序

古伽そうし云へる人あり千里眼順風耳
といふ二鬼政使役して居るから
能千里外の事を知ぬと云ふ余大遠
を察て杜門出ず且つ弦(弥)它(他)二百ニアラ
ず陽(せ)のめしせ万の事固より可知そうし
もあります然る朝野千里眼順風耳
へうそうを知る者更ニ
すまじ八鬼字将ニ神欲以鬼
作るとう云

戊辰仲夏

味方大ニ困スルニ
見山ノ後ヨリ追
ル妙見之渡場ニ
ル後ニ居ルトノ敵
雖ドモ勇猛ナリ
浮艾中ニ出ル近
者ノ前弥賊方ヲ
信柳極ル者更ニ
急ニ不一ノ希望

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

(ソ)
妙見山三仏
生戦地図

機少多御家之御人数山ノ横手ヨリ大砲打掛ト女幸ニ発芟賊中ニ違シ故賊方
之色顕シ故薩長一同進撃右ニ備之御家中人数追升ノ通ニ櫓ヲ追下シ申ハ賊ヲ人
薩長ニハ生取リ賊情剿滅致ス事ヨリ長岡迫ノ河ニ地雷火ヲ所有之ハ
最早敵方場積リ繰張リト行届候ニ不取切其上当地安ホ内者初面味方大ニ困スルニ
至リシ由我軍議三佛生ニ人数ヲ出シ砲撃之筈勢ヲ顕シ突然ヲ妙見山ヲ後ヲ追
掛ル手段ヲ取極有之ニ三佛生ヘ者高尾者ハ方其外信州勢押詰川ヲ隔ル妙見之渡場ニ
砲撃猛烈之ニ十四日夕ヲ十三日ニ至三佛生ヲ方先ヲ味方損多ク高尾ホ後ニ居ルトノ賊
玉ニ多分損傷致シ向妙見山之賊勢ハ盛ニ打懸リ薩長ヲ
シリゾキ之ニ不十三日ニヲ夏ヲ追掛ル一同申薩長ヲ意ヲ
ヲ呼明ヲ不申ト雖ヲ敢次第ニ敵早追ヲ取ル
一長岡其後一向音沙汰ヲ多ク不聞ク及四十人余賊徒ヲ隨シ妙見ヘ来居ル前弥賊方ヲ
認ムヨリ藩中初ヲ兵ヲ打ヲ事如何ヲモノヲ実ニセヨ長岡ヲ信初極ル者更ニ
多ク妙見押崩シ初陣ヲ不見ヲ安ニ雖押極後勢評判ヲ面ハ
一妙見之山嶮且大カルニ河ヲ帯ヒ峡最堅ニ見受ケ候ニ長岡ヲ落去不一ノ看覚

辻より東へ其止水門諸所へ有之水漬之便も有之哉ハ

一 賊七四千とも不三千余之由會来其外悪徒をそう

一 十三日三条降長卿方へ小高き所攻取牧野之家ハ久保五郎 西村健吉

焼ハらひ宣敷之事

一 同日敵多勢押行来ハ金児三郎其外二子ハ薩長ら和御告ら四砲お發敵之峰ヲ

降り所ら手込之人ハ不敢二人谷ら手落様ニ谷ら支度致し

夫ら四人手負ら日ハ数十發打ハ故玉付ハ宜敷ハら

一 薩長ら玉ハ發信ら外ハ一貫不申ハ諸家ら物ら事

一 柏崎口之人数追ハ千余ら程迂路ハ高田ら手経程迂歩ハ時ら支度致出

多ハ分ハ河ら渡十三日ハ戦ハ無之

一 近藤ら功ハ別ら不申玉ら候ハ後ら事ハ

一 一ハ貝合取ら荷物捨札ら諸長官ら有之ハ合ハ有大砲ハ皆長官ら銘有之ハ

先ハ手ら筆真ら降人ら言葉ハ

一 十会十一日ハ昼夜有之ハ

右ハ昨夕刻ハ(タ方)ハ

説話ハ(十二日)ハ今ハ須長官ら壽ハ之ハ初ハ有義ハ

發砲ハ等ハ之ハ長官ら多離ハ行ハ誤ハ一有ハ多ハ等ハ

ハ之ハ

昨ハ夕刻近藤ら寄ハ来ハ之ハ等ハ教ハ物ハ之ハ書翠ハ生ハ

ハ是ハ大敵ハ相成ハ之ハ止ハ行ハ成ハ之ハ哉ハ

場ハ一ハ聚ハ墓ハ建ハ哉ハ之ハ由

十月十八日

(五) 榎峠三佛生戦地図

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

此隊長親書
一讀兵制今
法ヲ可知世間
一轉播スルヿ
本藩ノ力ニ籍、
頼ル所也

五 怪我人

強ク膝ヲ前ニ離レ了　友太郎組　赤坂大組　今蔵　至テ之手負ニ
大久保組　屋　芳次郎
右之通候中追々知レ候
腰膝手　腕ノ右ヘ一寸余リ　吉兵衛組　加藤組　吉之助
肩腰手　前ヨリ横ニ　前ヨリ後ヘ　杉浦志兵衛
深手ニテ　眉ヘ入リ候　十四日
大鐵組次郎　大元組怪勤　相沢兵四郎　二十三才　大怪我　ハンド付支　栄五郎
右之外別条無之候ニ付医師ハ皆倅共ニ而出向手数中ト存ス早速ニ手当
致シ御申付候得共長途之事且雨露ニ晒シ候事故ニ付此地ニ而加養為致候
ニ新タニ或ハ當人之内願モ有之ニ付手負一同大坂表ヘ差送リ候処右仕様ニ候
ニ中候ト存候間出立致シ候ニ付手負人数一同ニ而江戸表ヘ差遣シ候ニ付此段申上候
十月十四日十五日　御用番　右之通

六
金四郎組
八番之丞

十月十一日三條生ニ於テ左脚之膝上ヨリ入右ヘ弾丸不出右之膝上ニ候中ニ止リ居リ小
病院醫師ニ而割弾丸ヲ出候事毎日當仕中病院ニ送リ其後七字ヨリ
修養仕候ニ付手摂瘡口左大右小ニ而右ニ至リ瘡上微腫疼痛脚筋
伸不相成其他別症無之候ニ付温湯ニ而洗滌宜シク和ラ左右ヨリ瘡中ヲ洗
浄致シ候而後薬油浸瘡中ニ入瘡口閉ニ而當仕候処神水膏摩擦包
裹仕候而後仕候得共湯兼用散薬相用申候十二日閉新朝夕賭安無事ニ候十三
日益来十字頃ヨリ寒熱往来疼痛相增候ニ付右之瘡中ヲ探リ候故ニ
存候ニ依テ機那塩膏貼ニ而分量三匁服一字毎ニ而相用ヒ申候十四日ヨリ當服薬
并日之通リ用ヒ十五日朝疼痛減左右之瘡口ヨリ膿少シ出申候食事モ二椀ツ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

十月十二日夜九字ヨリ後家住ノ者右ノ腕肘ノ上ヲ外部ヨリ突傷口径寸許肉破ル骨及ヒ右ヲ書微温湯ヲ以テ加ヘ瘡洗浄乳ヲ薬油綿繊綿浸シ一杯塡膏ヲ貼巻帯ヲ施ス仕方ハ昨夜ノ如シ後ハ毎朝ヲ以テ洗浄ヲ要ス

十月十三日三字過中ニ病院ヨリ来診ヲ乞フ住不定肺到底二寸余深キ事ヲ記シ後ハ毎朝ヲ以テ書ヲ送ル事ヲ約シ帰ル

十月十四日四字前中病院ヨリ帰ヒ来診ヲ乞フ昨夜ノ如ク膏ヲ換ヘ後ハ毎朝ヲ以テ書ヲ送ル事ヲ約シ帰ル

十月十五日

十月十六日

十月十七日

十月十八日

十月十九日

十月廿日

十月廿一日

十月廿二日

十月廿三日

十月廿四日

十月廿五日

十月廿六日

十月廿七日

十月廿八日

十月廿九日

十月三十日

十一月朔日

十一月二日

十一月三日

十一月四日

十一月五日

十一月六日

十一月七日

十一月八日

十一月九日

十一月十日

十一月十一日

十一月十二日

十一月十三日

十一月十四日

十一月十五日

十一月十六日

十一月十七日

十一月十八日

十一月十九日

十一月廿日

十一月廿一日

十一月廿二日

十一月廿三日

十一月廿四日

十一月廿五日

十一月廿六日

十一月廿七日

十一月廿八日

十一月廿九日

十一月三十日

十二月朔日

十二月二日

十二月三日

十二月四日

十二月五日

十二月六日

十二月七日

十二月八日

十二月九日

十二月十日

十二月十一日

十二月十二日

十二月十三日

十二月十四日

十二月十五日

十二月十六日

十二月十七日

十二月十八日

十二月十九日

十二月廿日

十二月廿一日

十二月廿二日

十二月廿三日

十二月廿四日

十二月廿五日

十二月廿六日

十二月廿七日

十二月廿八日

十二月廿九日

十二月三十日

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一
御供番一隊吉村左織組小頭相澤鉾之助 信州上田 十四日ニ戦争ニ罷向ヒ手疵
即刻絶ス 年廿一歳 中島直蔵 信州高遠 松崎志賀之助 手負ト申候

御供番元メ相沢右仲次悴

甲信出松崎栄三郎悴

⑦武蔵北越陣中ゟ密書 五月十三日

一書致呈上候 然ハ拙者長岡領榎峠之嶮ニ依リ官軍ヲ抗シ候 就テ者去ル十日小千谷出陣
直ニ程近キ浦柄村ト申所同夜三仏生ニ至リ陣ヲ構ヘ川ヲ隔テ昨日の戦争今日
迄ニ近凡四日三夜ニ及ヒ候へ共未タ十分ニハ勝負も不相見双方陣屋[illegible]候
[illegible]榎峠之嶮容易ニ[illegible]依テ川東之諸兵悉ク繰戦当地ハ[illegible]
[illegible]未タ功モ不相顕只々苦戦[illegible]候得共[illegible]
[illegible]三仏生ゟ東川辺ニ於テ陣[illegible]候[illegible]

⑨榎山領三仏生戦地図

[illegible]候

[illegible]

[illegible]右[illegible]

⑧北越在陣金児氏書状

フランス元込玉
早々銃砲薬ヲ以テ御事之品忠兵衛宅ニ有之四郎ニも仰渡上下[illegible]差送
リ候様相願度[illegible]薬も私共[illegible]
[illegible]御上御国之[illegible]元込玉
入二ツ[illegible]早速[illegible]

五月十四日認 金児五郎

御家中御同役様

扨又十日八ツ時頃ゟ五日昼夜大小銃声更ニ止時無之大戦西洋北アメ
リカ三日三夜之大戦ニ[illegible]長戦ニ[illegible]
[illegible]外国之[illegible]

定て三村君ニも猶更御たすけ成し下され候 先ハ右様之御同役ら被下
西薬ニ御座候ニ付候段一つ之ニ而御座候得共至而此後軍之兵粮無之而見苦
西洋流ニハ大砲流一向用ニ立不申候ハ御出来無之候也有之儀故何思ひ不
気はまり而御恐も可有之而御合申上候ハ無之又陣之節ハ必何様程俗軍
御座之御役一つ之て御存一 毎日ハ諸藩之人様て打寄候而五稜郭早箱夜を
明し大銃玉も多有之相働も無之御仕事之同之合ニ而し以而不申候 相峠
御家と一同国中節ハ右様之事も無之而へ又屋州上田とて国之替申候ハ上
之右様之峠御山を取りまし故ニ新潟慶之合戦ニ至り候ハ府中成り
致方も無之是迄之御軍功も今度つぶれ申ぬ事ニ而是ニいつれもしも
御之軍ハ上手之ニ成し候而死力を尽し而一歩も引不申候更ニ無之実ニ
御家之大名此等之御座候ても御候 ライフルニ法定し 無之ハ残念し右者

之ハ一方打砕ヶ申ニ足てもし御程無之一つならず何分も不日御勝利ニ相成候
今度ハ賊ハ関東脱走会津水戸浪 長岡も出て候との 長岡ニ今ハ
内ヶ砕き申候 先ハ早々様後便一つ申上候以上
五月十四日夜
御同役中様
忠兵衛

〇又
今五日之是より申ニ候 砲声不相止 実ニいつれ見極付兼候 山之戦 広野
之新相成し賊も必至を極め申候入 相手陣続大水出し天気ニと存
り入候 又陣立ハ路陣之事 当惑之至極甚長て代り合もいたし候へ共此方
ハ皆古和法御座候 大小銃弾薬も西洋法通り之出来不申候 多く
ハ国存外之又不入候得も有之ニ付以極兼候へ共平日御用意此節御座候が

雷同と有之ト
三郎蔵ニ而天砲ヲ以テ和兵長谷川半右衛門方へ引張ニ而孤歩行大、
半右ヱ門ニ夜ヲ大勝又ニ当ル五千七百余ノ兵ヲ引退シ他ニ対シ残念ノ
体ニ而素ヨリ西法ヲ以テ和ヲ主トシ而ヲ専ラ砲ヲ以テ勝ヲ制スルヲ
下ノ如キ事ニ候ハヽ六夜ニ敵ヲ及ヲ
雨ノ如ク之中ヲ潜リ抜ケ大阪砲列ニ天宮ヲ上ル者一ヲ以テ
数ヲ却テ後ヲ防ヲ打ノ者ヲ中リ三郎ヲ主人ヲ真ノ村ヲ香ノ長陣
二日ヲ三郎ヲ後ヲ陣ヲ取ル海ヲ我付際ヨリ付ケ計リ我大将ヲ
分友太印組ヲ人ヲ負ヲ吉村組ハ即死位ニ大変強ク蒲長ヲ即死ニ
永久ヲ外賊ヲ大造ヲ極メト志ヲ細又ヲ一ヲ上下ヲ
有ヲ有ヲ以上

十月五日朝

御同役中様

友太印組
一金作 弥 脇 張ク様ニ和ヲ
彦四郎組
一吉ヲ助 腕ヲ負ヲ脇ヲ
左ノ組ニ
一和兵 ヲ負ヲ

大右ヱ門組
一芳ヲ助 至ル
一杉湾ヲ 衣服
一松 ヲ
一栄 ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

右両人当六日朝五時小千谷表当石ハ東条村行吾ノ藏事少頃ありて梨村ヲ襲ひ其首領ノ内ノ者ヲ初メ数名ノ者ヲ斃シ当十日夜ノ戦争ニ石当ノ如ハ卿ヲ始メ其ノ外ノ者ヲ大勝方ニ於テ皆悉ク斃シ尽シ其ノ余ノ者ハ悉ク逃去リタリ

㊐三備生戦地地

㊑仝　寺内又左ヱ門迄

㊒三備生高梨村板山領ヨリ火道之図

㊓紀事

森脇

一屋ヶ崎迄飛脚ヲ以テ申ニ十月十日夕八時ヨリ戦ヒ始メ十一日夜不休四方ヨリ攻メ寄セ四人倒ス二七人銘々ニ死傷ヲ負ヒ大雨故戦ヲ止ムト云

一一説ニ我人数ヲ以テ二十余隊ニ分ケ四方ヨリ一斉ニ攻メ寄セ十三日ニ牧野之一本槍ヲ以テ小千谷ヲ乗取リ守ヲ所ノ家ヲ焼キ立テ云々ト云伝ハ十三日又戦アリシ故勝負ノ知レハ相就テ追ヒ帰ス事トノ事ナリ十七日ノ事ナリ

一我ヶ白砲ヲ以テ仝兄ノ営ヲ撃ツ落長ヲ傷ヲ負ヒ落手能ハス後ニ聞ク所ニ依レハ

一大砲三行弾二千個ナポレオン砲四行弾六百顆ヲ以テ二万顆ノ運輸ヲ以テ有ヲ如一ニ千余ヲ夜ヲ日ニ倍シテ運ヒ又小筒薬包五万雷管七万ヲ一ノ運ヒノ事ヲ夜ヲ日ニ倍シテ運ヒノ事ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

スルヲ以テ諸隊攻撃ノ準備ヲ整ヘ翌廿日午前六時ヲ期シ攻撃ヲ開始スルノ命令ヲ下シ各隊ハ其命ニ従ヒ午前五時ヨリ順次ニ行動ヲ起シ午前六時ニ至リ各隊ハ其位置ニ到着シ攻撃ノ準備ヲ整ヘタリ

一 午前六時ヲ以テ攻撃ヲ開始シ我軍ハ左ノ如ク配置シ敵ヲ攻撃セリ

山砲 廿五門 諸砲協力シテ敵陣地ヲ攻撃シ

野砲 二門ヲ以テ 諸砲協力シテ敵陣地ヲ攻撃シ

兵 衛 (歩兵一聯隊ヲ以テ二百人宛ヲ以テ一中隊ノ人員トシ各中隊ヲ二組ニ分チ一組ヲ以テ一回トシ)

又諸大砲一大隊ノ数ヲ以テ一組トシ各組ヲ以テ敵陣地ヲ攻撃シ

砲隊ハ最モ多ク攻撃シ小銃一斉射撃ヲ以テ敵陣地ヲ攻撃シ

又諸砲多ク弾薬ヲ消費シタル時ハ輸送ノ為メ一時ニ射撃ヲ中止シ

唯一斉射撃ヲ以テ敵陣地ヲ攻撃シ

一 ライフル砲一門 二門ヲ以テ一組トシ各組ヲ以テ敵陣地ヲ攻撃シ

砲隊ハ最モ多ク弾薬ヲ消費スルヲ以テ

一 剣口弥馬少将 亀尾 (鉄ニ変ス) 金井 友次郎

右諸隊ヲ正午迄ニ攻撃ヲ終ヘ午後一時ヲ以テ各隊ハ其位置ニ引揚ケ夜ノ来ルヲ待チ

一 十九日上田勢七十人許リ此地ヲ過北行セルヲ以テ

又ハ敵兵ノ来ルヲ以テ市ヲ空ウシテ逃ルヲ以テ

一 昼夜共ニ人ヲ出シ遠ク斥候セシム

一 十七日猟夫一人 三十歳 此地ヲ行掌砲四挺ヲ以テ

装ヒ馬上ニ菊花章ヲ小白旗ヲ以テ

功ヲ賞スルノ大砲二門ヲ製シ一面大太鼓一面士卒ヲ (断髪) 洋装羅紗服ニ改ム云

一 甲州黒駒ヲ産スル所ニシテ

今ヲ以テ七郷ヲ作リ各引率ノ人ヲ定メ

未ダ其命ヲ聞カズト雖モ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 岩村営軍所着三戦紀事類譯也所謂三戦ハ浅辺驛ノ所作ナリ

一 小智谷陣中倉廩ニ米五斗八二千七百ニ千俵苞ニ

一 小出多楠ノ内パン三叭有ニ(糧)

一 田中カ馬守ニテ一高踏り捕ニ

一 手四又左ヱ門ニ古浮流ニ不動ニ

一 等急ニ古修新流ノ二十日院

一 又寺内ノ如ク孔雀会ヲ開キ而シテ後ハ一条ニ

一 十雲メ十五日第一ノ七弾ニ高千雲ニ

一 十七日ノ生存ライフル砲一門小大谷追ニ

義軍中ノ隊ニ当ラン山ニ

字等ニ於テ云ヒテ鬼実ニ

者ノ山形ニ一仮行ト云ヒ

一 等急ニ古修新流ノ二十日院

一 又寺内ノ如ク孔雀会ヲ開キ而シテ後ハ一条ニ

一 十雲メ十五日第一ノ七弾ニ高千雲ニ

一 十七日ノ生存ライフル砲一門小大谷追ニ

一 若先手際ニテ大垣勢ト甲斐[illegible]ニテ戦アリ上ナレハ引キアケシニ甲斐[illegible]
付又右衛門ハ白河口ニテ戦ヒ大垣勢筆頭長坂ニテ[illegible]人戦死
四月廿日未得見出時落長ハ勝タリシ
渡辺驥ノ所作アリ
一 岩村監軍所著三戦紀事ノ詳也所謂三戦ハ安田雲山鎮[illegible] [illegible]
一 小智谷陣中倉庫ニ米五斗入二千七百三千俵苞アリ我所得トナリ糧食有余ト云ヘ
○敵兵[illegible]ノミ取得スルトナリシ[illegible]
若松ノ隊長ハ功大ナリト云ヘシ
一 小出島ニテ捕ノ内パン三吹有之 官軍 ニ出シ[illegible]保科家ノ紋之中札纏ニ一筒ツヽト云
一 田中力馬将員ニテ一番ニ鎗リ捕ヘ是ハ[illegible]人モ多ク人数捕付タリシト云
徒ハ渡辺ノ有ヒ神力馬ハ金五両ツヽ賜リシトナリ 四月[illegible]偏人ノ役[illegible]
一 寺内又右衛門ハ古洋流ヲ不用西洋流ヲ用ヒ雲山館頭員大平吉の
小鬼モ一ツモ不省人ヲ手ニ孫毛ハ感服セリ 又本年末共ハ宗林

五月十九日

義兵中ニ勝ヲ取リ山ヲ[illegible]ハ皆兵如ク感心セリト云 又夜ヲ[illegible]
四月廿[illegible]ト云トモ千ト見英ハ不好ウトニモ勝利ヲ得ルモノナラン
嘉永山[illegible]一便利也トモ云[illegible]ナリ [illegible]田越[illegible]
一 [illegible]保科流ノ二千日[illegible]
[illegible]保院ニ掲ケタルナリ
又[illegible]後ハ一[illegible]計[illegible]
○一 十八日小出島[illegible]十八日[illegible]千[illegible]戦ヒ即死一人[illegible]不一ノ免死
[illegible]復[illegible]
一 十四日[illegible]十五日[illegible]一所モ[illegible]十一[illegible] 二人[illegible]
十七日[illegible]
一 十七日[illegible]ライフル砲一門小千谷ニ運[illegible]七拾[illegible] [illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 雙代官ヲ以テ彼ノ方ヘ談ジ其火裏佐ノ大島ヲ以テ一義ニ及ブベキノ旨ヲ以テ
新政ニ入ル可ヲ以テ談ジ不ル可ヲ以テ談ジ決スル所ヲ誠ニ十寧及霞浦ニ
一 談ジ其ノ義定ル所ノ如ク二十七日ノ夜仕ル可キ旨ヲ以テ申談ジ夜ニ入テ
ヨリ佐ノ國ヨリ迎ヒノ船ヲ以テ海上ヲ渡リ江戸ニ着シ
一 十九日又往年新右衛門佐幸廷ノ際ニ於テ破リ棄テラレシ北不二ノ盟約ヲ
破棄スル旨ヲ以テ云々ト七ケ條ニ
一 十九日ノ夜北方ニ火光見ヘ雲ヲ映シ多ヤケ〻メキ〻ルヲ以テ云
一 九日ノ午刻ニ江戸ニ出張ノ松平大膳大夫ヨリ使ヲ以テ申越ニハ長岡藩ヨリ松平
越後守ヘ内通ノ者有リ其ノ者ヨリ聞キ込ミタル所ニハ
一 明ル十日ノ午刻ニ江戸ヲ引拂ヒ會津ヘ歸國スル旨ヲ以テ申越ス
此方ヨリ行ク所ノ兵隊ヲ以テ後ヨリ急ニ追ヒ掛ケテ
攻ル可キ旨ヲ以テ云々

一 大島ノ向岸ニ松ノ並木ヲ以テ其境ヒ砌リ砲臺ヲ築キ砲ヲ並列シ守衛ヲ設置シ
見ヘタリ其ノ高サ十ノ近キヲ以テ常ニ無水ノ場ニ
シテ後ヨリ進ム時ハ防ク事ヲ得ス又攻ル時ハ
一 十一日ノ夜砲声不止諸藩若干如形ニ非ス小出島ニ在ル士大ニ卒
無ヲ以テ同夜一戰ニ及ブ筈ニ有之所ニ村望許ニ
スルヨリ後陣ニ手ヲ移ス筈ニ云
○近日(10)竹俣多門(11)ト云ル者ハ七ケ條ノ外ニ新ニ
防禦ニ關係ヲ及ボス事ニ付テノ談判ヲ開キ
あとくされ(12)ニ成ル事ヲ防ク為メ(13)ニ一ノ書ヲ以テ
吟味ヲ遂ケ或ハ遠近ヲ召シ呼ビ
てうぢ(14)ヲ以テ言ヒ込ムト云々
此ヲ秘密ニ附スル
ニ云々

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 江戸表より小千谷へ入れ候後も始末これ有り候哉、一度も戦争これ無く候や、又は小千谷にて戦争これ有り候や、其の辺委細承り度く候、

一 小千谷より越路へ之間土屋に縞紬を着し官軍と申し通行候哉、又は通行相成り候哉、其の辺承り度く候、

一 近日信州より人数入り込み候哉、又は官軍の故、猶又は河ヶ迎の為、信州より出張候哉、其の辺承り度く候、

一 小千谷より越路へ之間、天宮ノ下にて官軍と申し通行候哉、又は通行相成り候哉、其の辺承り度く候、

一 出張の手組等これ有り候哉、又は官軍の指揮にて人足等差出し候哉、其の辺承り度く候、

一 三仏生より敵味方手向の模様、又は官軍の指揮にて人足等差出し候哉、其の辺承り度く候、

一 戦ノ始メ敵味方共に弾丸何程位打ち合い候哉、其の辺承り度く候、

一 十日の夜官軍小千谷へ引き揚げ候節、一隊多くこれ有り候哉、其の辺承り度く候、

一 出張の手組等これ有り候哉、又は官軍の指揮にて人足等差出し候哉、其の辺承り度く候、

一 三仏生より敵味方手向の模様、又は官軍の指揮にて人足等差出し候哉、其の辺承り度く候、

一 戦ノ始メ敵味方共に弾丸何程位打ち合い候哉、其の辺承り度く候、

一 十日の夜官軍小千谷へ引き揚げ候節、一隊多くこれ有り候哉、其の辺承り度く候、

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

原七て二ケ年ヲ過ル頃ヨリ次第ニ衰弊ニ及ヒ終ニ
一 青直代ハ楊峠ノ後経ヲ身ヲ離ヲ遂テ覿面
一 初筆追軍ノ前ヨリ之ヲ山坊ニ
軍代ヲ以テ
砂通ハ
多度ヲ走ル賊軍千餘ヲ
一 廿二日綿川芭馬翠谷ヲ
石ヲ知ラス

松山口ノ後ヲ頼ラルヽ
スヲ以ノ後
ノ位ヲ
家督ヲ
話ヲ

(十三) 津田源五郎ノ手牧字

前略十五日夜五ツ時頃小千谷ニ着陣ノ
処ノ後降遺
ノ大難渋仕ノ戦争ヲ如何ニ長戦敵
埒明不申ノ候ニ付今ヲ長岡ヲ初大島ヲ了家ニ
ホ出張頻ニ戦争ノ趣ヲ多ク今明日頃ハ長岡ヲ
ノ早九ツ時ニ趣ク夜ヲ例新井ヲ
失ヲ多ク大怪ヲ
ヲ早速相敗ヲ
ヲ早々諸軍ヲ議ニ
羅紗ノ両手ニ
ヲ

津田源五郎

長岡屋事跡後ノ為ニ領置ク処ノ人数取調当左ノ通

一 大島村ヨリ長岡城近辺迄道法一十丁程ノ間
小千谷ヨリ一里半程隔リタル天王山ト申ス処ノ茶屋十三日夜放火 賊ヨリ
十四日夜賊着ノ村ヘ放火
十五日夜 相川村ヘ放火 賊自焼ノ
十六日夜浦柄村ヘ自焼残リヘ放火ス 賊ヨリ

一 加州藩長藥師峠ヨリ賊四百五十人計ニテ
進発集又ハ討拂寺泊ヨリ方々ヘ引取
峠ニテ少々残大島冥ケ原ヨリ方々ヘ詰ヲ
ヶ節討死 長四人 藩二人
十八日ヨリ已ニ官兵長岡ヘ屯集詰ノ報ヲ多シ

一 前島 長岡三少隊大砲二門
一 大近 一地雷火二ヶ所
一 華生津 長岡三少隊 官兵百人程
一 大砲五六門 分営歩兵共
八十人程 長岡四十人程
一 新保 長岡六十人程
一 鉄伏 長岡官兵七十人程
一 柿崎 官兵二十人程
一 官兵 五百人
一 古屋 官兵六百五十人
一 切梨子弥 二千人
但シ勢三条ヨリ探出シ上杉勢ヲ了
長岡ヘ探ル
一 村松勢関ヘ出張シテ官兵
二百九十人余リ長岡ヘ探ル
一 与板ノ勢ノ峠ニ小隊出張ス
一 寺泊賊兵四百五十人程
但シ水兵多シ由

吠三條ハ第ノ砲計ニ訂復セル

此十四町ハ物見ノ北ナルベシ

一 藥師峠ニ於テ我軍大勝利
右ノ外利平次ニ關スル文書ハ多ク殘ラズ
五月十二日
右ノ外モ不殘送ラルヽ由

五月ホニ日

一 其後我諸隊土俵ヲ以テ諸所ニ壘ヲ築キ其裏ニ皆ノ字旗ヲ
ヒロ〳〵飜ラシ對峯ヨリ彼ノ一番ヲ見テ我又一番ヲ
殺シテ之ヲ但賊ハ日ニ減ズルヲ思ハレトモ
籠城ノ官軍ハ日ニ給繕多カラズ
一 十九日長岡燒ケ火ヲ見ヲトヽ云
一 廿日岩村警軍我士卒數ノ多キヲ以テ
ヲヽヲ他ニ多キヲ無ク
一 十三日ニ其筋ヘ報

此説ハ十四ノ末ノ混ヒタル話

吟ふ後眼大に奮ふ為ニ落ち重て退ント云ふ長谷場左右より迎て挽戻さ
時屋ヶ島勢正面より切入ル一斉に喊り追掛へテ之を落長ヶ城軍ト入乱戦り見ル内ニ
屋上伏り乱し攻ル攻ラルヽを以テ長ヶ城ニ囲攻られ苦戦遂ニ敵ニ入ラントス
安ヶ城を眺メ為ル不能敵ハ長ヶ城ニ集ル時苦戦ハ十三日ニ極シ敵伏ル
ニ引ツヽき小千谷ニ於ヘ敵ハ近ヘ寄ル事ヲ得ス遂ニ入口ニ運ぶ
ニ於テ敵ハ千秋ト怒ラントス云ヒ

一 長ヶ城ニ籠ル兵ハ一日ニ一度ツヽ食ヲ与ル而ノ後ニ敵ノ落ヲ待ツ
ニ云ヒ脱ヌケントヲ引キ人ニ装引キ入ル而ノ後ノ
引連ル落ヲ待ツ事ヲ為シ兵ノ少シ食ヲ眼ノ前ニ利ヲ示ニ実ニ後
迫ルヲ以テ敵ヲ欺キ行ル、ヤ否ヤヲ知ラント云ヒ

一 十三日ニ至リ敵ハ千秋ヲ始メ各ヽ方ニ分レ一斉ニ攻入ル而ノ後
ニ云ヒ脱ヌケントヲ為ス引キ入ル而ノ後ノ
引連ル落ヲ待ツ事ヲ為シ兵ノ少シ食ヲ眼ノ前ニ利ヲ示ニ実ニ後
迫ルヲ以テ敵ヲ欺キ行ル、ヤ否ヤヲ知ラント云ヒ

一 吟夕雪ヲ張村行人ヲ以テ田村人ヲ十八日小千谷ニ
許シテ大銃ヲ設ケ為ニ敵ハ小千谷ニ十九日ニ帰ル事ヲ
又沽徒千余、ヲ寄ル而ニ名ヲ為ニ敵ヲ、退ル為ニ
ヲ設ル而ヲ以テ

一 十四日夜五時小千谷ヲ出ル今ヲ三四ヶ時
ナリ

当十四日ヨリ引続戦争ヲ以テ兵ヲ要害ニ集ル砲撃官軍ヲ防ギ
ヲ新ニ築其後ニ兵在ル事ヲ記ス漸ニ小屋ヲ梅外ニ
ハ十九日朝ニ長岡城下ニ火ヲ挙加州ノ本通ヲ関原ヲ
有ヲ出ヲ長岡ヲ過テ焼手ヲ焼ル長岡城ヲ焼ル
ク焼ル十九日朝ヨリ夜迄花卿ヲ

多ク之人数ヲ各其陣所ニ生捕ニ来リ、西通ヲ宮軍神奇ト、長岡
不日落城一ノ和談ヲ乞ヒ申ス筈ニ候
五金吾隊世話役立花長兵衛話 追補
長兵帰後ノ話ニ、砂見戦ノ前橋藩ノ通シ屋吟ヲ我隊ヘ立ノ筈ニ
テ西洋ノ隊服着下路上ニ、死ニ居タリ、因テ中川ノ手ヨリ捜ニ
報有ヲヲカサガ押下ロニ来ラハ不ニノ防ヲ以テ支ヘ我ガ二三等ノ人数ヲ
山ヲメ有ラハ報ノ砲ヲ放ルコトヲ約ス乃チ藩ヨリ使ヲ
得テ走ト故ヲニ下面ニ五七人ノ者ヲ
以テ山ヲ
再ニ
ヲ

右ニ有之候ヲ実ニ若シ小千谷滞中ニ存ル五月三日ニ
化ル様ニ
方ニ
ル
ル
ヲ
右ニ有之候ヲ実ニ若シ小千谷滞中ニ存ル五月三日ニ
化ル様ニ
方ニ
ル
ル
ヲ

名を備りたる者の文ハ探索致し居る人々ニ而一向知レ不申候

[illegible]写

六七

㊆ 堀田喜作書状　五月十九日付

然ハ仏人数今以小千谷ニ滞陣ニ罷在候備之様子一寸申上候去ル十日ゟ今以昼夜之無
差別戦争ニ而併ル長戦ニ付仏人数ニ而ハ甚難儀其上魚并玉子ニ難渋致居候外
何品とも不足之由仏人数之儀ニ御座候其上兵粮不行届候様との沙汰之由ニ而十日ゟ昨
今迄之仏方料理類并魚物等沙汰之由之事書之由ニ而ハ水災ニ大騒ニ付ニ
至此心配ニ罷在候如何相成候哉

一　市在之義ハ三仏生村と申所ニ出張罷在候処相替儀無御座候何れも驚入候
罷在候当十五日ニ三仏生村之人数ハ生魚柳嶋より沙汰之有候ニ付右之国
野様之一同私共ニ至迄沙汰同人ニ而甚不安心ニ御座候

一　只今迄本陣ハ寺ニ罷在候処昨夜長岡之陣営ハ賊徒夜討を仕通ニ而
賊徒共却而長岡ニ而切込レ人多被死候由ニ御座候

一 宮本氏十五日着陣の由なれ共一昨十五日昼比より仏生村へ引退く由
みだれ病急特参ありたきの旨にて大銃方へ細川向より数人
出張私へ十五の夜三仏生村へ難を避の上夜中引返すべき旨
昨十八日夕七ツ時迄
一 昨夜より今朝までとくと談合致すべき筈
より長岡大火勇士たちしらぬ大小千差万別戦ひ多経勝敗つゐに
十日ほど今朝迄出火十日の昼夜の差別戦争せし
勢敵より味方の家に火をかけ
十月十九日 筆記

六 高田物語 白井越陣中雪道 十月十九日暁迄 六月三日迄

一 官軍会議處と申処当春右にて萬事評定
なりし座敷の人相話せるもの

一 此表へ参て軍令状布告当春当地一の
一 当地も存の外なる土地にて多年来て我川中等の如く饒ニ地ハ数所
強行の土地にて一寸地も安き所なく
一 諸品の高値なる事一度の数ニ一なる
一 与板を始 玉蔭兵衛下に此集りて居たる
との相違る且万事深重にて
一 石地と申処ハ柿崎より六小隊出張右内一小隊完出雲崎へ交代
一 数月の連雨にて信の川大水野営の土居を押切長岡 与板 村松等の領分へ押入田地旦

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

民家数ヶ処数軒を流設して兵ありとなく新義

一 去廿二日新井宿御進軍以来一日も休時の矢なく昼夜共故派途旦今月十日夕七ツ時頃より今日に至る迄戦争日夜更に休戦なく山上に野陣を布れ温気を帯び旦暁に及び雨降ること甚だ多く二の着も眠ること能わず雨降りつづき此上悪病を発し候ては容易ならざる事と存じ候

一 村松 村上より一番勢 玉ヶ処舎兵 さやされ故多分実雪と戦ひて官軍を防ぎ兼ねるとも長岡城へとも長岡城にても防ぎ兼ねこれ又容易ならざる風聞に付長岡と我領分との境ひ人数を出張して拒いよ

一 長岡より領分の要地数ヶ処へ人数を出し死力をつくして官軍を待ち受けよいよ長岡にて八家老川井継之助吸事より栃堺をそう警衛の外うちまち人引多分ら私家

一 仲候て仲間近傍へ出張仕候様御達之事

一 兵輪炭方買置之長岡家人 川井田村 人物 当年取人 馬上

その元員仲候、弁月一日暮敵ハ節早駕籠にて長岡のうち多分の種

述ル二刻程の内通りて小千谷へ参り監軍引連れ直松岩村精兵

多分を成名詰両成ル兵輪一言の申訳もなく仰れを役ヶ国参くとの

ヶ条の経高談ニて兵の毒なるべし次の両条の外細文字残

ようくくくく

一 長岡へ舎兵数人多寡 務計兵集四宿往来新潟辺より日々集ル由

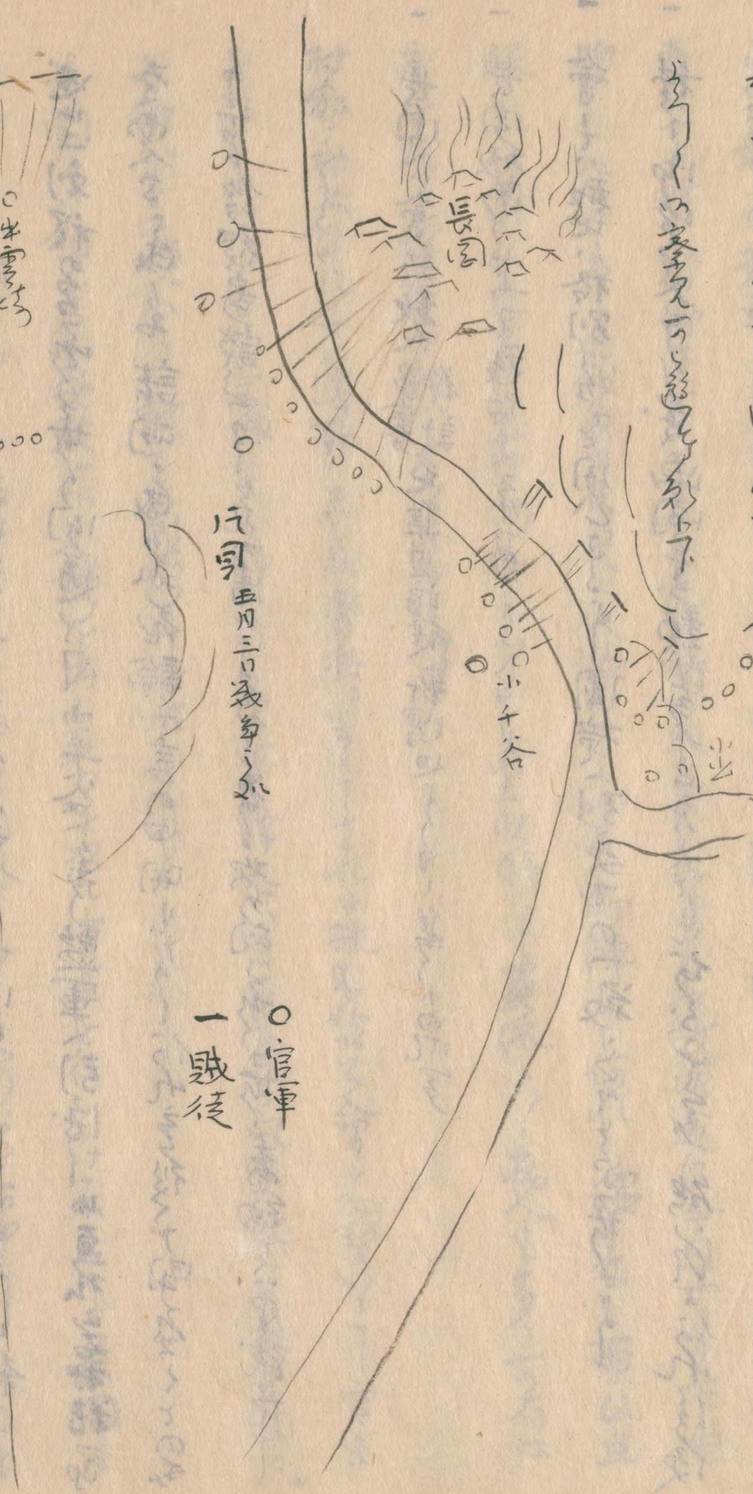
一 長岡城陥ル上一報ニて早あるべく候

一 舎ニて熟地へ格別力を用いるに付国境引受ての一報ニて

一 様ニ御望ニ入申候ニ付西国勢ニ多ク候ニ付

ようと一ヶ条ニ申候

一 移て五月廿六日夜半山上より二寸のいとまるく淡く黒き丸ものゝ雲ゝ逃て下



敵地大略之図 戊辰五月十九日暁於山上認之

高田物次郎

五 坂西某害其家事書抄

一 越州村松藩十九日二百人程賊徒を迫し当藩之兵長岡落城之節兼而之取極功績を顕

水戸実説

一 長岡嗣君ハ勤王家之ト云故ニ家中二つニ割レ其下ニ君侯玄蕃頭徒ニ随従

ニ敗ル故遂ニ滅亡ニ及タル由

一 五月十九日暁七ツ時頃ニ官軍ニ分隊川向ニ移リ果名ニ焼玉ヲ撃掛ル向七ツ時過ニ迄ニ焼失舎桑長岡ニ十里餘ニ

城之内外あちこち焼失舎桑長岡ニ十里餘ニ

一 十九日賊軍直ニ長岡城へ乗込ニ相成ト

一 長岡落城相成ル故先越後ニハ賊多ク追ニ奥州へ御攻込ニ可相成ト

一 去ル廿七日ニ捷ノ届ニ分而ニ沢山ニ有之ニ付ニ而ハ

五月九日

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

(手)北越在陣金井清八郎宮森藤新藏書 五月六日

前略去十四日より日々戦争開柏崎口ヨリ官軍相進み十六日大島村ニ而会十七日休戦ニ而発砲なく十八日も甚く発砲昨ヨリ岸ニ上らん程ニ至りしが仍て防戦強く為ニ長ク陣兵も引去りしが由長岡ヨリ右ニ加勢ニ而も有之候哉不意ニ乗寄セ大小砲戦甚ニ而大砲ニ門附つけ込ニ昨暁(十九日)不意ニ乗寄セ大小砲戦甚ニ而大砲ニ門附置品々手捨逃退ニ付敵味方共ニ市中潜伏之筈ニ而市中ニ火を掛ケ候ニ付(十九日)市中ニ而ハ火ニ而ハ昨日ヨリ焼ケ残り二ノ丸ヨリ又ニ而焼ケ残ル人と大島迄探索ニ罷越候処右次第ニ而城下火の中御細仕ニ而親兵引撃ニ付さすの参謀長州三好軍太郎ニ而御座候間御部屋ニ而加州ニ而も引退しめ右造作もなく系込ニ付火事も市中ニ而ハ南村ニ而ハ不残焼キ南村ニ而対岸ニ而ハ大砲ニ而ハ手ニ而ハ筆程打合ニ而ハ得共長岡ニ兵火ニ而ハ若柳ニ

しか故我弾薬テシト字ヲ拾遂ニ吾ヲ吸多飯田藩ト名ル所ニ来ル此時村松ノ人数モ浦村ニ多取
ル大島ノ名ル処モ村松ノ大砲弾薬或ハ梯ヲ村松見ニ申候ヲ会村松ハ今ニ保候ト
ル止ルヲ得ヲ出兵ヲシテ多ク服組ニ一条モ打不申実ニ多
不ト敗賊ヲ多ク村屋ノ方ニ多リ山ノ頭ヨリ妙見ニ手ヲ移峠ノ辺ニ兵集ル賊ト
吸ヲ夜ニカケ大化引退キ吸ヲ今日ハ諸所ニ人数一条ヲ打破ヲテ社右
ヲなまじ打出ヘテ彼ノ人更ニ慶ヤボシ実敗ヲ虚敗ヲ未タ知ラヌ不申ニ全軍信濃
川東ニ押渡ル遂ニ越国平均一ノ和国勢ヲ多ク侯油断ハ大敵ヲ蔑ヲ諸
ニ戒メラルヽヲ多ト仰ヲ多ク
村ヲ

二日相澤某宅ヲ西某ヲ
此次第ヲ書ノヲ使ヲ多ク多ク頼ヲ下ル
長岡城陥十九日速ニ落

帝中富中ハ不残城内ヲ不残放火右ヲ依ハ中道ノ方ヲ
援峠ヘ急山ヲ化十余里ヲ西賊兵充満ノ望ヲ方ヲ
天兵ヲ引ル翌急ニ今日ハ多ク榎峠ヲ方ヲ賊兵不残全思ハ
十里越ノ本陣ヘ逆ノ手ハ長岡七万石ヲ棒ヲ引ル西家ヲハ一旦村屋ヲ
ト存行ヲヲ是ヲ追ニハ今ニ逆ノ手ハ々今ハ家内ヲ多ク村ヘ着ノ兼
ヲ今ノ賊ノヲ近ク越ヲ一定ニノ和成ト勤王ヲ有志ヲハ
ヲ私ヲヲヘヲ天幸ヲ多ト来書

五月九日
川井
一ノ手ヲ
今日
ヲくなつ申ゆくしヲよとされど早くそうそう
二 五月六日長岡ヲ九ヲ多ノ急ニ仰ヲ急ニ来ル名話

一 廿一日朱隊敵隊長岡へ押入ざる方隊と交ること二日 其隊

一 廿二日河原隊長長岡并某寺院等隊下お義田作平に義をかゞ小松ざ
宮軍入ざり

一 市中三ヶ所焼失(残え)ざるなし而已焼失ざるなし

一 廿三日之鉾隊長岡ゟ我軍下見旁、出張ざるに
右ざる仰ぎるとも不ゟ由之ざ古黄谷両等

(三)北陣阪西某ゟ間 (五月廿四日)

前略小出島ゟ隊廿一日長岡ゟ(萱)峠へ進軍ざ相成ト等経ざ路し長
岡ゟ程出ざ、お成一の子ざ父ゟ小林 村内程等ざ進軍ざ等
ざ
ざ

一 御家ゟ隊長小千谷ゟ二ノ程出ざ長岡へ進軍ざ等
ざ

一 御在不清(明)村ざ下目付 磐山清一郎并尾藩五人廿五日ざ探索と
して お殺ざ如(露)深くゟ敵不見峯へ登ざる如二向祠側(そば)ゟ敵七十人有ざ北ル二道
ざ
ざ
ざ

一 長岡宇ゟ十九日迄ざ各面信州上田村上佐兵衛屋ざ泊五人敵ざ目黒主ざ
ざ土御門殿役人阿部ざ祝ざ者九年ざ入宇ざ
ざ

一 上杉勢七百人村松勢三百人余クソウヅ迄ゟ来ざ火ざ掛ケ
戦ざ後ロゟ頭者ヲ打落ざ由
ざ

ざ阿部ざ程ゟ承ざる ざ山ざざゟ ざ ざ ざ ざ ざ

(三)

五月廿二日付桐澤氏ゟ来状写

兼ゟ一昨日申上ゟ通長岡城ハ十日ゟゟ長戦故何分如何と案軍居ル處
意外ニ一瞬の間ニ成焼ニ相成目ル當ら札も方ゟ取敢ず二百十六俵ら
ド二門 四砲 三十寸ニ門ニ外大砲五多分ゟ取有之
余ハ種ゟ數(カズ)ゟゟゟ大砲ハ先唄ゟ都合五門ニ而ハ
ふ思議ニ存ニハンド二門ニ而ハ剛銘有之ト雖 松代鈴木某鋳之と
有之ハ右ハンドニ先年金鬼鉄砲ゟ頼ニ而
由ニハ長岡ゟ譲ニ鋳ゟゟ物ニ而ニ候今度会津ゟ友大中ゟ多分ゟ而ゟ
求ニ高名ニ而ニ雀躍ニ存候ニ雨ニ出ゟゟ物ハ則雨ニ而ゟゟ事ニ候ニ
一ゟゟ事ニ候ト

一隊長ゟ昨日ゟ人數ニ残ニ而連長岡城へ向ゟ進軍ニ而ニ候ニ小千谷ゟ
五里ニ

出張の人数、直ニ山之口へ急ゝ賊兵を移すにその事長岡家中より婦女子
八杤尾へ立退きとの事、舎那古屋ニ賊八村松へ引きとの由村松より今度昇降
ゟ之所ニ出兵之勢二百九十人長岡ゟ楫取の義急飛軍艦故賊と一同ニ
逃帰りて実ニの事下長岡ニ戻後一国一般ニ
ゟ如何君公ニ不明ゟ十日ゟ間ニ七万石を持ぬうてや上下歳ニ未迄ゟ天地ゟ
習ゟ不容ゟのとお感ゟし心柄と、六申昼非ル気ニ事ゟ下総守ゟ考
ゟ石ハ実ニ天下ゟ名義ニ字を失ハいめ私ニ天罰ゟ仆日迄ニ今度
の某ニ豪傑だのゟれハドイフ卜ゟものだのと仰ニ成ニ今日賊の名を
受天兵の名ニ時ニ相成ゟるゟ彼ニ小ゟ様ゟ事ゟ
則名義の存ルゟ不存ニ二ツふゟ賊の昼迄数日ゟ
ゟ山ゟ豪場ハ彼の巻下辺ゟ不敗時ハ一人ゟ万夫の喰迫ニて真の要地

一賊の退ゟ後一見ニ廃寺を求ゟて防ゟ
を建ゟ数ゟ数ゟ程ゟ新築屋迄格子ゟ
掛ゟ窓ゟ旦彼ホゟ箱ゟ角ニ官軍ハ今ゟ
先ニ十八日長岡ニ参ゟ不参ゟ支ゟ見ゟ第ゟ入仕
ゟゟゟ十九日早朝ゟ敗れの後ゟ
を突め防ゟ角急天罰ゟ那ゟ是ゟ村松ゟ角急
先ニ白村屋ニ急ゟゟゟ

一賊官軍ゟ真似ゟして不残錦章を着そ
真似ゟ角急早錦章ゟ可ニ上ゟ三好軍太郎
一別紙薩長ゟの如ゟ死傷ゟ
ゟの別ニて薩長ゟ今程日ゟ

相澤龍郎
竹内友馬
岩下章五郎

屋外より一巨物手帖を窓より家内を窺ひ居るを見て…
…家を窺ふ事に候ふ由にて〇大猫の如く大笑の
みて何事も実情家内へ向ふ猫の様子を語る由にて表向は強く
様にはドコカフトキ不安の点ありて又の名を勝利と云ふ
熟慮の事と大変感心の意見賞讃故皆近傍の集る
長屋に次て勇猛と云ふ事なり進むのみ退くを知らず
ゐ…ジャンキリと申候もの四五人もえらんドレトヤの牧野組に入る
勇猛人物と多程にのみ止ゴロフクをスッポウダンブリの手へ
一層宜かるべくとの事

一不残長岡へ進軍と称し竹内岩下の二手谷に残れ
弘化辰国家騒乱

一越後より長岡へ注ぐ指す先多和ト
越後一脈と長岡を矢ひ僅に城付十万石
二豊と泉水の中一種の石を放しと
必ずあれ下に眠るの

一別紙も友達の人々なるの

落首人之士
中川雄三郎

(表)
落見

寺又一所留送小異
如加条

右ハ葉州峠戦争ニ節
去ル二日
鉄砲 吉川信太郎 次
深手 山邨竜治郎 基
ニ而

右ハ三佛生村戦争ニ節
十三日
右之通ニ候上
五月十八日 松美浦家来 堀保治郎

覚

四日町ニ而 深手
去ル七日六ツ時 敵ニ打留ル
右之通ニ候上
五月十八日 本多丑蔵

覚

七ツ
五月十八日 鎌山兵馬

五月十一日榎峠戦争ニ三佛生村河原ニ而応接人数
左ニ榎ニ而左ニ榎ニ而討死
日数 日不 新

荷ニ而 深手
右ニ而股ニ而貫存命

深手
右ニ而股ニ而貫存命

同十一日戦争榎峠ニ而発人数ニ
日付役 野間次大夫
砲手 木兼助
少荒熊手負 船越精一郎
徒士 大熊健助
鉄砲 銃士 堀内学一
土屋作之丞組 土田善右衛門
銃士警護 村上九兵衛
櫻井紙蔵

右之通ニ候上
五月

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

覽

同四月廿二日雪峠戰爭之節
深手　討死
淺手
同　手
深手之人淺手之人
同廿七日小出島戰爭之節
淺手
即死
五月三日江貝村戰爭之節
討死
根岸金藏
寺尾富吉
西川汁吉
支ゟ之二人
渡辺新十郎
支ゟ之一人
佐藤九郎兵衛

討死
討死
討死
討死
討死
即死
同十日ゟ榎峠戰爭之内十九日迄
深手ニ而之死
討死
淺手
同
佐光次郎
三宅清助
三尾文十郎
本多又藏
邨瀬甫助
支ゟ之一人
野崎弥七郎
伊藤又十郎
同本栄
栗田場吉

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

浅ノ

〃

〃

討死

右之通書付以上　五月

覚

多賀討死書

討死

股澤手

勝頭深ノ子

柚原若狭手

水谷忠之進

丹羽志津江

原荘作

後藤孝吉

岩田釜之郎

名前

五月三日元貝戦争之節

股澤ノ

時澤ノ

五月十二日三佛生村戦争中之節

勝薄ノ

頭澤ノ

勝浅ノ

都合而十ノ多賀討死八人

右之通書付以上

五月十九日

伊藤弥惣手

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

寺田又左衛門

一 昨日小浜ニ生捕ノ賊徒長岡町南千手町ト申所ニ打留メ候ハ
昨四日十八人ニ又今日ハ十人計有之候
一 長岡婦女子又ハ老母ニ類近村ニ隠置候ハヽ速ニ出ス様ニ
ひゞを廻昨日夜軍今日迄ニ悉皆ハ未ダ進兼候ニ付
進兼候ハヽ誠ニ気の毒ニ候ヘ共長加刀の場ニ於テ
別紙ニ覚

一 落ル
一 討死
一 深ク負
昨日大小姓賊徒飯山表ニ侵入ニ付於田村戦争ノ節

一 深ク負
一 落ル
一 即死
一 行衛不知
一 討死
一 落ル
五月三日片貝戦争ノ節
一 深ク負
五月十一日於三仏生村戦争ノ節
一 深ク負

一 深ク負
一 落ル
一 即死
一 行方不知
千四月十六日常峠戦争ノ節
一 討死
一 落ル
五月三日片貝戦争ノ節
一 深ク負
五月十一日於三仏生村戦争ノ節
一 深ク負

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

名称不正ノ兵制不定改セザルヲ以テ同藩銃ヲ細小ニ書シ又ハ書ヲ省ク如キ不可ナル者ヲ在陣中ノ人倫ノ叱ラヌヤ

軍事掛ト掌兵局ヨリ答ヲ待ト雖モ後ヲ一切不告ヲ以テ

宮軍ト抗セタルヲヤ 教

五月

當十三日榎峠戦争ノ節

一人負

十三日右同断

一討死

右同日 高田於テ会津戦争ノ節

一深手

同日 榎峠同断

右之通ニ候 以上

五月

白石山向原州ヨリ西布茅生ヨリ田改堂ヲ口ヲ州経長峯ヲ越ヘ会津ヲ攻ル道ナリ

吹金カ

右ヲ変軍ニ際シ各藩ヨリ多人数ヲ以テ出張

添名ノ

牧野功之助

大砲ヲ

松崎志真吸

小隊伍長

相澤弁次郎

夫丈人

元込大砲台
アルムストロム

(六)在陳中黄詠太郎奥橋共息男書ヲ以テ

黄義ヲ以テ角田ニ両夫ヲ以テ差下ス依テ差出ノ件承知ノ旨ヲ以テ

不天ニ来ル七ノ日ヲ以テ帰国ノ事

角田ニ於テ両夫ヲ以テ差下ス件承知ノ旨ヲ以テ

多倭ニ於テモ先ヲ変後ヲ特ニ動揺セザル

河内ニ於テ地方ニ於テ休息ニ及ビ候ヲ以テ

ソノ中元ニ帰ル賊ヲ追ヒ探索ヲ

ヲ以テ金倉山辺ニ於テ賊ヲ討ノ件

ノ子高人ヲ以テ大砲拾門ノ銃ヲ以テ

ニ元寸四砲ヲ以テ戦砲多数ヲ以テ

ノ為和名ヲ以テ大小弾丸ヲ以テ

多ニ於テ実ニ一ノ数ヲ以テ着ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

名称不正ハ兵制不定故也〔以下朱書注記、判読困難〕

在陣中ノ人[illegible]

一 當十二日榎峠戦争之節（朱：十月）（朱：小林吉志郎）

一 手負 十三日右同断

大砲手（朱：照準士） 松崎志摩之助

一 討死 十四日於三国峠戦争之節（朱：小頭）

吉井大隊組（朱：伍長） 相澤金次郎

一 深手 同日於榎峠同断

夫 吉人

右之通御座候以上

十一月

御名内 牧野[illegible]郎

[illegible]

右者[illegible]

(朱) 元込大砲ニ合 アルムストロム

(六) 在陣中黄[illegible]太郎眞楯其息男書　戊辰十月廿三日

[illegible]

[illegible]大砲[illegible]

[illegible]金倉山[illegible]賊[illegible]

[illegible]賊数[illegible]

[illegible]雷フル十二封度カノン[illegible]

[illegible]大小流弾[illegible]

[illegible]砲戦中大小弾丸[illegible]如雨

ニテ小銃ハ殊ニ打込ガ多ク夫ガ為メ弾丸ノ飛ヒ速極烈ニテ其手際ヲ驚ス崇ガ烟ヲ見ルニ
心得タル者共モ玉薬ノ性ニ迷ヒ有リ右弾丸毎ニ奇妙ナル物ニテ大筒弾ヲ近ク来ル
四度ノ寄手ハ清浄ヲ浄ム様ニテ其土手ヲ一寸毎ニ見ヘ至極法ニ出
後ハ見合ハ通ク射ヌ事ヤ又其ツカニ三尺計ノ間ヲ弾丸通リ其弾ヲ投ク危キ事
有之中十九日夕刻味方小銃狗壁拵ニ溝ヲ付内ニ登リ放チ夫ヨリ溝ヲ去ヘ
通リタルモ其音変アリ烟中ヲ通リ受ケ其手際ハ只烟ニ入ル迄ニ地ニ伏
少シ高ミノ上ヲ走リ掛ケ玉ヲ飛通ス事十 左様危キ事ニ来ル度ニ怪我無キハ実ニ
皇上ノ御威稜且 諸神ノ冥護ニ依ル事ナラン
長岡十九日落城ニ至ルモ加賀高田飯山等ニ諸手川瀬ニテ砲戦ノ中十七日ニ八
右ノ大島牧方ニ上下ノ長岡長木川ヲ越ヘ其後与数十日ニ近ク之ニ渡ル十
八日休戦同廿九日ニ又大島牧方ニテ陸関ヨリ向大島ヲ越シ長岡長二小隊出張

ヲ為サヽル事ヲ恐レ放火シ中十七八ケ處ヨリ火出一圓ノ火烟ト成リ何ソ勤 王ノ志
ヘアル者ノ内ニ有ヽ此ノ放火ノ跡ハ皆見ヘタル実ニ薩長宅ヲ放火スルハ右極問ニ合ハサル故
ニ有リト十八日夜来ル火出シ城ニ十九日夕時迄自焼ニ延焼セシト申ス

一 許ニ 官軍規律不届處多ク土民撫育教備等モ無ク要衆防戍ヲ備ルモ無キ
一條ニ衆北陸道ニ人数悉ク出張ル事ニ申ス由ニテ其之ル諸家ニテ記甚無覚束
ナル事有之ト

一 奥羽諸家ニ於テモ下越ニ諸家ニ然自然ト其内ニテ然ル事ヲ戦ニ苦シミ
之様ニ付キ別紙探索書ニ通リ有之急ニ通ルノミ得難キ故ニ是ヲ以テ
ムリ命ヲ与ヘス候
右ニテ今日稀ノ実効ニ之数日ノ間隊ニ付息ヲ取ルト存一寸認メ差出候
様ニ此報ヲ何方モ雲ノ之處ヲ高年ハ稀ノ事大勝ニ於テ収候ト可ハ候ニ付ク寄志

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

一

長岡の賊舎ともお浪ヽ播磨守方ニ而三佛生藩ヽ相守其ヽ人数出自分も右
之通ニ張罷在ル川東榎峠右ハ上杉雲信頃日ヨリ防御ノ為ニ有之
翌日ハ朝第一小隊ヲ尾州ヘ千人大砲二門ヲ人数二十人ヲ同所ヘ
罷越ヨリ山城ヲ中々有之ヲ人数ヲ守備ニ而ハ
人数手薄ニ付九ツ半ヲ限リ当方ヘ人数ヲ引取ル筈ニ而ハ
六日右勢三佛生ヘ出役川西上田ヲ第ノ尾州ヲ
大砲二門ヲ筈方一個ヲ同小千谷ヲ出張筈ニ而
上田ニ小隊ヲ榎峠ヘ一ノ砲ヲ同様ヲ一小隊ヲ
交代ニ致ヲ云ヲ右ヲ皆名可ニ故ハ地形ヲヲヲ
出ル事ヲ不ヲ自小千谷ヲ竪軍ヲ頭
逐ヽ榎峠ヲ賊ノ為ヽ文奪ヲ
其四日ヲ而榎峠ヲ会兎一小隊三佛生ヲ筈ヲ
十日七ツ時芳賊ヲ榎峠東山頂ヲ
長岡ヲ方ヘ雷ノ如ク轟ヲ
官軍ヘ敵ヲ兵ヲ志ヲ
争ニ致ヲ
出張ノ為ヽ向ヲ長岡兵ヲ
右ヽ山頂ヲ
者ヲ東ノ

る不出什らの又之様頗く八宽一二小隊位ハ脇と成り高ミく常陸詰ハ行く十日又来
十九日近般千萬路九諸見ハ勿論十六日死傷ハ何程とある也
時と連雨洪水信濃川を渡りて接戦を得る上田ハ川西より夜襲大小銃数千
發するへし依て上田死傷あり於此勢なるも未た川西より夜襲かくるよりなれハ為
る大小銃砲を以妙見か登致る賊を遂ニ打退けやし山上並川西より妙見るに砲戦
永くして遂ニ暮ニ至る此日薩長高鍋大垣三備在て来れといへとも川を
隔るによりて夜中不残小千谷ニ引取此所ニ尾州ら薩隊も同しく来る故薩州渕
部揆右衛門膝右尾州抔をとゝめて三備在を助け去めんと令せとといへとも
千賀ニ人令をも不用して上田の隊て引とるにて夜中ニ渡る不妙見の賊為
相つる川西の我隊ニ発砲厳敷て我諸隊ハ賊夜中発砲且備事を備といへ
とも我ニ於ても八つ手と備を不備為砲不致して厳ニやて賊浪船をとらう

桜武叙日記
忠武日記従
野州来ニ之八
十二日夕著之

ふ為しと役し定
十一日尾州上田を榎本峠をせる事を不得して図の吊又退きやるといへとも賊を
以て榎峠の険阻に大砲小銃を進め防衛せる事を不得 ○ 此日小千谷ら長藩
沼野徳太郎 士 司令 小隊を引き来り諸隊を評判し預備せ右ハ明十二日川东
榎陰ニ寄り賊の備を破らん為薩長来死兵を以攻撃せんとすれハ川西ら妙見の
後援をたち山上の賊を砲撃厳急にして可援らの監軍の令る其事を
長藩へ告して我兵を要せしめんとせるの意也
是ヘて薩長未た意と去来ハ已の威を誇旨て諸侯の兵を害ひもの
と。おのれの功をとるを専とせる之古来ニ昔役せられハ皆名在
ニハ無之哉
当夜ハ萬を為らせ又彼の砲発ニ為致せしめんと評判して防禦而在

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

此義ハ見方ニも五月
六八日迄北陸道
ニ来の小銃弾丸
十二万発余と云
右銃山庫借ニ
来るりと云

十二日如何妙見の賊且榎本峠山頂東表ニ陣しける故の賊を山越ニ大筒を
以て討ニ妙見の賊の砲臺ニ向大小銃発砲明方より七ツ時迄迄終つらるる双方
の弾丸雨の如し去これとも賊も弾を惜むるを見る此時ハ賊の十発ニ
我方発ちも発しぬへきとなるへし官軍方之令にる長沼源太郎の一小
隊を応する放発もさせん此家の外へ数発 高田一小隊大筒二門を頼ニ
放発催促し此時ナホレ筒の基臺を乃る長く五六間余を横合へ押し出せ
填して無法の度ニ放発へもなる格発ス後ニを銘もなるし其場を去ネ
云償同郎之此夜も三佛生ニ寄る其ニする兵へ引取判ニ家小千谷ニて迎来る
とて請ふへく一切郎も来らす引延ヤト

一 十三日十四日十五日大砲様相如常日々にて有るを当に大小筒を弾丸ともに甚だ
発し故ニ其より放賊の砲発を防ひしらひ打りする日も送りる官軍を宜之

弾丸東方の此義
具ハ如何其以て
方有ニ至る大
砲方の面々将長
軍ニ鬼へとる
巻ニも種々
く当軍ニ入る
悦く

一 桜西日記水西ニ
砲銃数打撃水
東攻三四五日十
三日ニ事く

一弾丸を費やし直ニ当る三を打する迄ハ此義具ハ方ニハ自論に官軍の令にて云々と
何との云ふ且ニて弾丸を乍法費し此節一切無之
去十二日大小筒を撃ち向藩長高隊 隊二少 榎峠東頂の賊ニ向ひ此理攻ニ
於し賊の砲臺を武ニ家を多分死て其へとも三度目ニ大ニ敗れ三方ニ逃る
縦道若殿ニ上長州小隊長ニ隊ものニ死傷多く藩側ハ何と思ひしや
同じく不退引のよし 右賊の方にも死傷なきかの由のし

一 右十五日夜迄如前書たれハ夜ニ榎峠を山頂の衰を突ニ去二十日
伏し山東のハ頭ニ攻めて新製を以し其時衰兵ニ討取りし山頂の賊
を攻しるるへきを十五日迄因循して家へ十五日夜賊の方ニ榎の本峠
後方へ砲臺をつき張也しや 官軍の其備ニ此等の

一 十二日小千谷ニ在る兵大らかハ川東の賊ニ備て小千谷ニ宜之

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

大島救十六日ノ條
十七日ノ條ト併セ
更ニ改ム

十六日ハ雨日ヨケレドモ昨夜ノ如ク昨夜ノ放火大島救下ノ
十七日朝大島ノ方ヘ加勢ヲ出ス官軍ハ長岡ヲ落ヲ兵如図ヲ以テ大島口ヲ砲ス
新発田ヨリ来ル援兵ヲ合セテ三千人ノ内ヲ以テ
十八日ヨリ住砲ノ始メ
十九日又図ヲ以テ長岡ヲ落ス川向ノ官軍ハ
其夜敵ハ昨夜ノ如ク放火大島救下ヲ
始メ悉ク引揚ケ大島救下ニ火ヲ放ツ官軍モ
ヲ渡リ追撃ス〇長岡ノ西ノ方ニ当ル
東ノ山ヲ越シ来リ攻撃ス〇三仏生ノ賊ノ後ヲ
時ノ位置ヲ表ス下ノ図ニ大手口ノ山上ニ有ル小屋ハ大ク本営ヲ
カヽヨリ大手モ天下稀ノ本営ヲ攻撃ノ雷ヲ
心ヲ以テ〇印ノ所ヨリ攻撃ス
ヲ以テ十七日迄城西城北ヲ官軍一切ノ配ヲ
力攻ヲ以テ昨日ヲ暮ニ殆ド人力ヲ
先ヲ官軍ノ難ヲ
以テ敵ヲ軍略ノ
ヲ以テ敵ノ険要ヲ
ヲ兵ヲ進メ不攻ヲ
ノ際ノ十七日ヨリ如此ヲ
テ不抜ノ難所ヲ
礼ヲ軍モ今午後ノ
緒言

右探索書ハ二日前ノ
戊辰
藤一

三條五の町堺之上大砲七門村上兵三百人余兵歩兵弐三百人余之堤上大砲
三門三條先若男女引揚方中候ス
一
来る七八十人が義国メ但来月之近辺ニ
地引筆可申候屋宅ヲ立除ケ村上兵三千人
強立之下候事ニ村村ニ而
る八百人程之村村ニ而
当十五日新潟湊ヘ北アメリカスルクニツヲリヤ
イキリス
但此船ニ横浜町人貿屋
新潟ヘ参兵八百人程
浮
一
兵戒ノ
交易意味
異国人旅宿
一
交易ニ
一
羽州
八百人
一
新潟
一
十五六
今ニ
一
許数四
先ニ

係ル

交易意味ニ新潟四ヶ所ニ
異国人旅宿ヲ
交易ニ
羽州ヨリ
八百人
新潟ニ
十五六
今ニ
許数四

一 水戸四十三人程人ハ二千人程田不成ニ屯集ノ趣ニ候

一 奥羽諸藩近々探出シ風聞有之候得共承候儀難計

一 十八日會永寺浪人弥彦口ゟ新潟へ五六人ニて出張有之風聞ノ趣此事ハ未承不申

一 米藩之役柿崎和泉并名倉新津同勝部ゟ今日出張ニ而此表へ着宿
之趣之

一 中通戸村ハ仙台因州勢并之人数ノ候ハ雖計多風聞候

右十七日ゟ廿日迄新潟ニ而風聞事実探索仕候

嶋田弥三郎

五月廿二日

右ハ米沢屋方三家人数新潟ニ探出ハ仮之当迄候彼是人数ハ四郎ニ
探出シ仮ニ当迄候ニ付三家ハ十二カ所も有之候得共探索無之候

加州

嶋田弥三郎

五月廿二日

桜此探索書十七日ゟ廿一日迄新潟ニ在テ事実探索五月廿二日加州伯留等ゟ與板ニ而送ル云然ニ日丸三日首鐵書輸ニ而送ル実得御此速アルヘカラス五月廿二日ハ誠壬月廿二日ノ誤欤

吉田

大倉亘利

新潟

山崎利兵衛

石黒敬吉

與板

松多つ様

河西宗吉様

太田要助様

按ずるに此三家ニて實事ニ為之候ニ付而村松長岡之人数為之
御出陣長岡も将又人数も三家之来たり且又実之見
分程ニ候下の数ヲ以て此まゝ有之候人数も候迄出張
承合候得共連之下候

二九

屋筋 津九郎手代 佐藤傳五郎
同人家来 福島傳左衛門
大数 本村■吉

一 長岡ゟ本村入字福島ゟ鍋之上入字佐藤ゟ飯綱り屋入
一 日光関松慎室ゟ関の山加茂峠ゟ稀佐藤一同揚り屋ニ入今ニ三人目録
一 十九日四十村頭同日町字屋へ火かけ重ね候也
一 右松ヶ澤嶺を越稜家ハ小平尾ニ出十九日夜取ル

（一）

兵糧方之メ山下某ノ手帖　五月廿六日

前略長岡城下ゟ三里余下ニ一昨廿三日廿四日戦争御座候右ハ薩長加州御当家様ノ人
数出張是又勝利ニ御座候且廿四日与板辺ニ於テ大小砲打合ニ御座候是又今日迄勝敗ハ
相分り不申候猶又今之戦争ニ付候へハ勝利相成哉宜敷方ニ御当家御旗
薩長之旗出来候夫方ゟ手ぬかり無之候相見え申候村中ニ而度々山ニ

五月廿六日

横田様　　　　　　　　　　　木之助
大二郎様

六月朔日

三

一 昨夜御用佐久郎探索ニ罷越し右之上州ニ在之勝者兵ハ大勢ニ而須坂ニ一ヶ所ニ集居候
先ハ役人令郎探索同役日仕舘ニ而上州口へ赴きし速ニ兵ハ之を止し
不安ニて非を勝之ニ示ハ一ヶ所ニ陣取論日記中也ニ載タリ

又一説ハ此下方ニテ二手ニ分レ半沢口ヲ立ヘ行ハ一隊ハ
カヌケ峠ヲ越シ高松ヘ出ル由ニテ此隊ハ高松ヨリ
(三) 北越在陣久保五郎ヨリ書翰
先ヲ先進ノ中嶺ノ手峠ヲ打合ヲメノコモ長岡ノ
其節ハ小子共モ十日朝五ツ時比ノ手峠ヲ方ヘ
迫ヒ晝夜トモ打合ノ處終ニ弁当ヲ引取
長州加州高田勢大島ヲ押渡リ又巻下ヲ
ト申外ニ大銃頻ニ到ル由ニテ
小子ハ宮本子郎外ニ兵隊ニテ巻下ヒ
八日ヨリ長岡ヲ楯込ノ柳ノ手ノ処後詰ノ兵
小子ハ宮本子郎外ニ兵隊ニテ巻下ヒ改出陣ヲ夜ヨリ長岡賊ヲ舎賊ヲ手合ヲ
ヲ小子共ノ座ハ先ヲ處十七日長府ヨリ手紙ヲ心有野村隼太金児三郎西村健吉
長岡ヲ楯込ノ柳ノ手ノ処後詰ノ兵ヲ有見合ハ十九日朝七ツ時前比ハ
長州加州高田勢大島ヲ押渡リ又巻下ヲヨリ薩長ヲ西軍ヲ攻掛ハ賊ヲ座王
ト申外ニ大銃頻ニ到ル由ニテ小子ハ宮本子郎外ニ兵隊ニテ巻下ヒ改出陣ヲ夜ヨリ長岡賊ヲ舎賊ヲ手合ヲ
ヲ小子共ノ座ハ先ヲ處十七日長府ヨリ手紙ヲ心有野村隼太金児三郎西村健吉
迫ヒ晝夜トモ打合ノ處終ニ弁当ヲ引取ル由ニテ此隊ハ高松ヨリ
其節ハ小子共モ十日朝五ツ時比ノ手峠ヲ方ヘ出陣ハ十一日十二日十三日十四日十五日
先ヲ先進ノ中嶺ノ手峠ヲ打合ヲメノコモ長岡賊ヲ舎賊ヲ手合ヲ
(三) 北越在陣久保五郎ヨリ書翰
一説ハ此下方ニテ二手ニ分レ半沢口ヲ立ヘ行ハ一隊ハ
カヌケ峠ヲ越シ高松ヘ出ル由ニテ此隊ハ高松ヨリ

(ヨ) 妙見図
(ソ) 長岡図

方ヲ玉ハ届ハ柳ノ手ノ味方大砲七門ニテ一時放ヲ向ニ二門有玉数三拾位ニ打ハ賊徒
ヲ玉ヲ放ルサヽ引ハト直ヽ薩加三小隊八薩ハ一隊ニ
玉ヲ焼失仕ハ火ニ而相成ハ小子共ヲ薩加ト二而直ヽ相渡ハ先ヲ味方人数ニテ長岡ヲ
一番ニ乗ハ小子共ヲ又ハ昨日三付村ヲ二里餘ノ離レ松澤ト申處ニ賊徒三百人
程居ル故薩長加高田花勢ニテ打掛又
申太刻頃友ハ勝利ノ躰ニ長加ハ大銃二門ヲ有依「曲」
柳ノ手ノ陣ハ由ニテ三ケ村ヲ引取ル
薩ヲ薩ヲ仁礼源五右衛門ト申人ト致図
人ノ座ヲ作明見ヲ図又長岡ヲ図ニ枚ヲ
五月廿六日
ヲ郎
ヲ御両親様ニも弥ヲ御ヲ誠ニ以恐悦奉
ヲヲ頼ハ長岡賊攻ヲ處ヲ薩ヲ松代大砲ヲ

右六月六日五郎ノ妻ノ父夫人奈良井村大作ト予者ノ合ヲ同ク出立五月晦日着ス

㊂ 同上野村佳平太事ヲ

独リ私家ヲ経テ長岡城下近ク来リ旅ト先達テ奥人ノ戦ノ中ヲ慶小千谷宿ヨリ長十里ヲ送リ小千谷ヨリ五里程北ニテ、ノ峠ヲ越テ五月十日ノ夕十七日近辺合ヲ長岡ノ西ニ当リ秋ノ村ト云ヘル所ニ着ス薩勢ガ陣頼ヲ大砲ニ打頼リ右ヲ長岡セメ当月十八日両日打合終ニ長岡城ヲ無厳没ス小長岡家中ノ者共ヲ男女小供ニ至迄家来ヲ引ク人ヲ若干ノ小人ヲ長岡ヲ海ヲ越テ中ノ島人数ニ薩州長岡屋敷ヲ目指ス田舟ヲ作リ影ヲ人数ヲ渡リ賊徒共中ヲ多ク乗リ出ス事不ヲ追々今津ノ方ヘ逃ヲ云ヲ

ヨリ云ヲ

年ヲ

㊃ 北越陣中ヨリ五月六日附書状

長岡ヲ三里餘脱ス中ノ小千谷ヘ六日頃ヲ又ヽ賊徒共多勢ノ屯集ヲ指ス四ノ合ヲ以テ細ヲ賊士発ヲ云ヲ

小千谷ヲ長岡迄四里余有ヲ

昨夕長岡帰ヲニ文領ヲ者ノ伝ヽ右見舞ヽ賊徒ホ処ヲ云ト内

整軍岩村精一郎殿今朝御陣ヲ中ヲ小千谷ヲ迄ヲ屋ヲ引移ヲ事内

大隊千賀某明日ヲ引移ヲ事内

御人数ハ長岡ニ出ル軍ヲ蔵中ト

㊄ 又

一昨廿四日長岡ヲ三里程先ヲ付 松ヽ沢ヲ予ヲ云ヲ

全ク長岡ヲ 野ノ川我組三国峠ヲ宣村ヽ 松村組警軍附 牧野組松ノ

在河村ヽ

一長岡ヲ又ヽ大銃砲門其外移ヽヲ有ヲ云ヲ戦ヲ者ヲ引ヲ事ヲ

見改済

一 三六 奈良井村夫人大作申條 久保平甫 紀聞

此者ハ閏四月廿一日千手より五郎ト所居出知候ニ合ヒ廿六日長岡を発足同晦日柴屋
ニ来り出郎ニ之賊を見テ出郎村ニ而列た出めし

閏四月四日榎之木峠打合之節砲場ハ三丁程も上ニ有之休息之小屋有其下ニ有之夫人抔
御用之者ニ而小屋ニ而帰り居申候処同日も同様之所真嶋村夫人并全兄三郎之夫人
抔之人足有之候処大作ト申もの砲場ニ上り発砲を観ル如何とて出り候
候れ共発砲ニ而怖ク依ル一人ニ而三丁も上り見物致居候処打合之場ハ危ク候
ニ而不一寸手とて割し候ニ側ニ見候見物致後難儀候同行一人も不見不思
議ニ存居候ニ相尋候得共右之当ニ而砲創を受け同行ハ皆逃居候
四大作を尋候へ共敵方ニ知レテ帰リ候ト偖右砲創之様子ハ大作ニ而遠州在
ハ辺ニ而

長岡辺ハ信濃川幅員四百四五十間も有之哉ニ而

長岡家中ハ十九日以前ニ皆逃去候哉一人も不相見只居宅並町家近辺ニ而辞し有之候
賊徒之死人家中ニ而以後分鉄砲又ハ刀疵ニ而死し候者凡二三十人ハ致同然ニ而候
長岡ニ而負死人八九人も有之哉ニ承候由
賊徒都合甲冑着之同袖細襟ニ而但村書之者ニ而家合ニ甲冑百人余程焼
有之由村書付ハ夫迄不分早々致散乱ニ而
長岡表を十九日朝六ツ半時頃城内を逃出され候由多分六千里越之方へ落られ
候得ニ而風聞有之との事
長岡町家之者も皆出合候ニ追走ハ喧嘩致候由
長岡城ハ当時落長ニ入候由御殿ハ焼失御蔵二棟焼失未新和入
の蔵ニ而御門を以第一之御門之 此下屏末焼失 諸御門四ツハ依然として存在
之由し

有る由要するに落城の砌及び逃去に
城内に有之蔵庫等の巡察仁礼源五右衛門
之きて君主を家中の者て衣服し有之候歟其
有之候計不苦候歟又は当年乱れ等の由
持参候ては宜敷との処不苦とのに付
ず編笠黒漆塗にて三つ巴の紋有之候と
地の者落長外他国の者に候ては不入との
庫府に金銀を一切多の由に米穀合せて五万
ひ候 処見受候 大作に大島にて候
云うに候 大島は兵不向
十一枚ずつ有之候

(三十) 北越在陣竹金氏書翰 一云矢助氏 五月六日

昨六日下與板辺にて会戦に官軍長外、栄営は
進み処敵裏より廻り挟撃に相成石流に落長は辛
吉を今日八面の山手に備り諸手の人数は源辺へ押下り会
勢を張り是非取返さんとするの手にて与板城は
ちかき家相徳より後巻の時過報知有之候
き、相成不申に落那は途中より右岡に行逢大に張合之
逃大喜び叫び由に候

長岡降人は預ケ相成候名面

根岸西郷右衛門
中村誠蔵
山田愛之助
お倉次郎

藤野友三郎
小林兵衛

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

陶山若男
父子ともに名代
稲垣平十郎

紀事

○長岡降人二百人程有之帝之座敷縁引之四畳敷迄ニ而御簾 主設之陸之人ニ而ハ無之候云

一 稲垣子助ハ従来傷ニ而歩行不自由ニ付川井之者ニ助合ニ而漸ニ引取候云

一 川井徳次郎ハ元与力ニ而今ハ七両人扶持ニ而御目見ニ而ハ無之候云

一 妙見檀本峠ニ長岡千二百人余ニ而ハ無之候云

一 榎嶺ニ賊ノ遺ス処之書籍我多楠中十三寸手白砲鉛玉銘有之候云

一 総而ニ而ハ無之候云

一 官軍ハ例之通薩長ノ家金友之一小隊裕津之組ニ而ハ無之候云

一 漸ニ七日夜引取ニ相成候ニ付彼ハ三百計之所金友之一小隊 此内介候ニ出シ定員不足ノ由 ニ而ハ無之候云

一 廿四日ノ朝ハ廿七日迄ニ二之塁場迄乗り取ル紗昼夜若戦ニ而大苦労ニ故吉村隊と右乗取ニ之塁場ニ而交代ニ長岡迄引取候節ハ流石ノ薩長ニ而感賞致シ候云

一 人村松勢ハ二日ノ朝ニ而ハ無之候ニ付今日ノ暮前ニ相定候朝ニ而ハ無之候云

一 援兵ハ来ル廿薩長ニ廿七日早ク出陣ヲ催促ス右ニ付牧野一小隊新発田ノ四分ノ隊等、金忠ライフル持参出陣ス 長岡攻ニ間ニ合ハズ 此度ハ金忠大悦大勇ニ候云

一 方ニ当リ火気相見ヘル ニ付板ヲ向下ニ与板ト唱ヘ来ル二四日ニ焼失ニ与板ヲ焼サセ焼ケ出ス官軍勝利之ヨシ

五月廿九日附ニ長岡ノ某ノ書状

第ニ其ニ来見附ニ而ハ後両日ノ戦争之次第廿四日ノ見附之先帝改ト唱ヘル ハ鉄砲ヲ撃戦ノ有ヲ功 漸ニ七日夜引取ニ相成候ニ付彼ハ三百計之所金友之一小隊 此内介候ニ出シ定員不足ノ由 ニ而ハ無之候云

一 廿四日ノ朝ハ廿七日迄ニ二之塁場迄乗り取ル紗昼夜若戦ニ而大苦労ニ故吉村隊と右乗取ニ之塁場ニ而交代ニ長岡迄引取候節ハ流石ノ薩長ニ而感賞致シ候云

一 人村松勢ハ二日ノ朝ニ而ハ無之候ニ付今日ノ暮前ニ相定候朝ニ而ハ無之候云

一 援兵ハ来ル廿薩長ニ廿七日早ク出陣ヲ催促ス右ニ付牧野一小隊新発田ノ四分ノ隊等、金忠ライフル持参出陣ス 長岡攻ニ間ニ合ハズ 此度ハ金忠大悦大勇ニ候云

一 方ニ当リ火気相見ヘル ニ付板ヲ向下ニ与板ト唱ヘ来ル二四日ニ焼失ニ与板ヲ焼サセ焼ケ出ス官軍勝利之ヨシ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一第條之舍長隊僅ら四十人ニ不足の勢をヲス一小隊ヲ三ク
勢ニ敵シ勝利を得不思議成ル身方ニ死人ル死傷多
長岡降人八十余ヲ小荷ヲ以テ勤王を唱ル士ヲ
ニ相成ル而已ならず五十川之手ニ入し両人生捕長岡
人逃ケ後れしもの〻ミ一発ニ
一長岡ゟ東の山奥半蔵鏡と申ス処ゟ張世呼ニ長谷川太郎病気の
代ル
長岡降人の頭ニ相成ル名面

彼の三百余ヲ
金友長ゟ追ヒ参ると令して引得ん
際薩長ル賞ニ残ラ所ると言ルか

四武敏北越陣中ゟ来書 五月九日発 六月五日達

初迄ニ十日小千谷ヲ張口原ゟ一ヲ二条隔てニ仏生ゟ新ニ
ニ戦陣ニ対シ互ニ戦ニ使ヲ見布列仕ル処ニ同廿日朝ニ敵口ニ戦争始ニ而天勝ニ
候間無須柏崎ニ勢大島ヲ襲ル遂ニ長岡ニ城下ニ放火シ忽チ兵威ニ及ひ
ゟル次第ニ芳戦ゟ〻ニ長岡養和戦ホ悲ク枋尾三長岡ゟ
ル処ニ而ハ友軍ヲ立一日ニ長岡ニ攻込ル処ニ
一下先小千谷ニ引揚一議シて関原ノ方ニ
連ゟ〻ル四日川西ノ友軍不残長岡ニ進軍
前ニ出兵ニ而帰使ヲ動ル飯塚ニ正直ニ長岡ニ
ル様ニ成ル処ニ支ヲ立三日長岡ヲ三里隔て見附ニ
ル方ニ兵ヲ金児ノ一小隊ル形ニ一組ニ
下ル四日見附ゟ一里余枚沢ニ

六月五日

見附枚沢

十処ニ賊ヒ集住セシヲ其ノ砦ヲ攻落シ兩兵相向ヒ鼓ヲ撃
ヲ始メ互ニ死ヲ期シ苦戦ス私子ヲ率ヒ進撃シ賊ヲ破リ
住ト官軍ヲ援ケ死ヲ決シテ賊ハ戦地ヲ十四人斃シ
ヲセニ手人ヲ以テ四面夜戦地ヲ衛ヲ多ク分チ
ヲ以テ一ヲ以テ賊ヲ防ヲ処ニ存ヲ
押寄セ方ノ物見ヲ追ヒ砲撃仕ト故藩長ハ兵ヲ
ヲ藩長ヲ進メ本道ヲ六方ノ兵ヲ進メ七ツ過ニ賊ヲ破リ
赤沢(サカト云)村ニ藩長ヨリ兵ヲ進メヨト方ノ兵ハ支ヲ先ヒ
引揚ケ殿ヲ補二人アリ多夜戦争ヲ
度数藩長ヘヒ終ヲ加ヘ新ヲ替ヘルヲ
明ケ暮ヲ組ハ未ヲ引揚ケヲ
山手ヨリ方ニ賊敵在ヲ就中黒坂ヲハ松ノ戦ニ
レ打死ヲ負藩ヨリ二十人モ有ヲト雖ノ難戦ヲ
ヲ一組十三人限ヲ潜レルル者ヲヒハ格別ノ
張仕ヲ為ノ時ヘ敵ヲ可申ヲ
加ヘ進退ヲ仕ヲ多ヲ戦相ヒ賊悉ク敗亡
裏ヲ通ヲ直ヲ見附ヲ衛ヘヲ
張ニヲ時ヲ夕方ヘ組ヲ交代ヲ
掲ヲ指タリ又松沢ヲ方ヲ
方ヲ勝利ヲ賊ヲ遠ク
ハ賊ノ命ニ替テ持トヲ

服ニ致ス者ハ村民又与一ト云者ナリ又十六日ニモ加州之方ニ而大砲ヲ打込ミ分取イタシ由右ニ而賊モ
大ニ弱リ申候[illegible]近辺ヲ[illegible]与板ニ相成候由十七日ニ金児ハ吉村ニ代リ私共ハ
八東ト代リ長岡近引揚ニ相成候由海軍モ来ル六ヶ日ニ賊船ニ差ヲ砲ヲ且焼打
ニ及ヒ候ニ新潟近モ官軍ノ手ニ入リ候由長岡藩ノ者出ヲ申事ト奥州ニハ夜ニ白
川ニ於而城ニ相成候由会津ニテモ奥州口官軍ヘ謝罪申出候由又当方越後ゟ向ト官
軍長州ヘモ謝罪ノ使者参リ申候当所長岡藩モ凡七八千人降参申参ル
北越戦争中逃出シ申中ノ婦女子鋸山ノ麓ニ穴アリ当所ヘ入水ニ及ヒ又ハ
土手ニ而自害ニ及ヒ者百人余モ有之候由気ノ毒ニ存候事ニ御座候

一 江戸ハ一乱ニ相成候ニ付宇田栗園ゟ御用状ヘ申参候由委細ハ其節ニ可申上候
追而武器弾薬ニ一ノ失ニ相成候事

一 甲府之方ハ先ツ風聞申事ニ付一ト先ツ右参ル之事ハ候ハ、高方引揚ニ相成ト

ハ、[illegible]諸之可申付ハ[illegible]一先藩長刀ヲ何分不離孤子留メ置候
[illegible]先ツ申候事申候[illegible]

十月廿八日 記

長岡ニ而 [illegible]郎

北越在陣 金児銃頭 友太郎 寄其家 十月廿九日

唯今幸便ニ付一筆申上候 先ツ今日迄相替儀無之候 父上様ニモ昨日与板迄ニ而戦争
相始メ申候右ヘライフル二挺ニ相成中小手ニ而ハ長岡ゟ三百北ノ方ヘ相移リ候
見附ニ近ク候長加州様と一同御陣[illegible] 廿四日ゟ廿六日迄三日之間戦争 廿四日[illegible]
取村 廿五日ハ赤坂 廿六日モ同様同国ニハ少手一隊ニ而賊ヲ二百人程撃取候
処ニ大勝利ニ相成大慶ニ存申候 同日廿三日頃ゟ戦ヒ何事モ無戦場ニ而八
十里越ヲ賊人高田ノ近ニ而戦ニ付[illegible]長州加州賊兵四五百人と[illegible]
長州加州高田[illegible]武器人モ有之候[illegible]

道知いざ村より不意に戦争に着長之由早々死失有
之候小子共儀幸ひ今度之幸と心得人より一歩も長岡
陣屋を一つも小以上
ヤリ大九
ちしえ之玉造、柳屋中に新手殺へし百姓の敵中へ
突入
友之助

(三)武敏長岡ゟ来書　　十月廿四六月廿四日着

一六ツ半ゟ板戦争皆官軍勝利賊下知へ逃去ル由与板ゟ素ヨリ
ホクヨリ
忍ゟ嬉しき戦争、賊ゟ迫ゟ来ル由ゟ家宅放与板
長岡兵隊の外芝戦仕ル由豊津岩村氏ゟ附属ゟ兵士ゟ半ハ関原ゟ進下由長
岡在陣ゟ中々ゟ上手ゟ牧野但七番戦士雷風
砲一門鐘忠ホ鬼様ゟ為船ゟ
賀ゟ出帆仕ル筈ゟ板ゟ着ゟ頃ゟ止戦ゟ手成ゟ弥ゟ
皆ゟ支与板ゟ砲多ゟ焼火相ゟ夜四更頃消火ゟ様子ゟ実を
不得又彼ノ見附ノ北今町ゟ方ゟ火勢ゟ
候ゟ様ゟ三條ゟ吐ゟ至
私ゟ儀ゟ迫家ゟ仕ル様ゟ唯火ゟ着ゟ是迄ゟ
早ゟ程ゟ綿ゟ御心配ゟ成ゟ下ゟ

一 塚川山越ノ二小隊ハ六番戦士ト一同ニ進ミ来リ候処杉沢ゟ赤沢辺ヘ進発仕候是ハ
村松ヘノ道筋ニ御座候ニ付但シ千手節ニ付今ニ一度モ苦戦不仕私共ニ此方ニ而ハ送
懐ニ而ハ無之候
去ル三日ゟ杉沢辺賊屯仕ニ付去ル六日迄合戦但シ共ニ御陣不容易之戦争ニ而何連モ
疲労仕候七日新ノ手様替ニ成リ休息中ニ御座候得共今日迄之処ニ而ハ何方ニ而モ怪我人
無之候私共ニ而モ合井精気宜敷出精ニ而働仕候其代リ怪我人モ無之候
尚又去ル廿三日ニ八頃ニ至リ右之方ニ而夜ニ入リ暴雨ニ而モ有之随分困リ入候事
御座候何卒御案し被下間敷候右之段申上候以上
右之通申来候

一 関屋村戦争之節大黒村ゟ御注進有之候ニ付何レモ一統罷出候
右之段申上候以上

(三) 関山藤三郎ゟ北越陣中ゟ寄越候書写　戊辰五月廿四日

一 当十日夕七ツ時頃ニ至リ妙見之方ニ当リ大小銃之砲声甚敷ひゞき候ニ付御
教令ニ通リ支度仕居候処蒸気砲有之ニ付出張用意之所早速三佛生村ゟ出張之令
御座候ニ付直ニ千谷出発仕同所ニ至リ候処高梨村ゟ進軍之令有リ即高梨
村ニ着陣夜中迄罷在今日戦争ハ昼八ツ時頃ゟ初リ賊徒信濃川向榎峠与申所
ノ嶮岨ニ台場ヲ築キ備ヘ妙見村近ニ賊徒千余人程出張居候由官軍ハ三仏
生高梨村浦村辺迄厳重ニ備ヘ砲戦ス御家御人数高田之人数上田之人数
長州之人数都合川向山手ゟハ御家御人数八番戦士監軍附一小隊牧野但馬守
薩長之人数尾州之人数都合私共出張之方ハ五番戦士七番戦士金児但大砲
方小宮山清水福井御内方村但馬守ニ十日昼ゟ戦争初リ十八日夕刻迄九
日之間昼夜之戦争実ニ苦戦ニ御座候十九日暁八ツ時頃長岡城ゟ薩長之

人数船ヲ渡ル速ニ先鋒ヽ進行破ルヿ能ハス故賊徒敗走シ去ル長岡速ニ落城ノ城下
家中町内外放火七分程焼失長岡主人初メ家中不殘杤尾口ヨリ乃チ去リ
シ官軍速ニ御系ヒ鎮撫ヲ乞ヒ加州ノ人数ヲ乞ヒ何ヒヲ以テ乞ヒ若戦ニ及ヒ
長岡落城故榎峠妙見賊速ニ敗走シ逃去ル
一 松平御徊五番戦士新文中ヨリ通十四日夕七ツ半時過頃小千谷出立高梨村
ニテ九ツ半ト云フ十一日終日高梨村信濃川ヲ手ニ拠ル砲戦ス夜ニ至リ三
仏生村ニ至ルト称令ヲ三仏生ニ至リ持場厳重ニ守備巡見ス同廿日止戦
休息ス廿一日朝四ツ時頃御見付下陣ヨリ系小千谷隊長初メ総軍長岡ヘ
陣迫軍ヲ以テ寄速ニ支度昼兵粮食ヲ仰ヒ下ノ船ヲ渡ル廿日亦休息待合ヒ
松ヲ通ル夜五ツ時着夕刻迄休息ヘ隊長ハ
着ヨリ直ニ出立夜五ツ時頃長

国ヘ着下陣ニ至リ休息仕ノ廿二日隊長初メ
ハ夜陣ヒ同廿三日朝長岡ヲ三リ見附ヲヒ
仕ヒ金児組一小隊同生ヲリヒ昼八ツ時過頃
落長ヲ両人ヒ系出ル本通向道地形家整築
有ヲ付早ヲ敗北ヲ長州第七三人ヲ一同探索篝ヲ焚ヲ
両所ヘ同終夜交代守備ス廿三日四日見附ヲ
大物見ヲシテ松澤ヲ方進ヲ敵後四五両人
撰戦争苦ヲ付御家ヘ為援ノ頼ヲ付直ヲ戦
ヲ内町ヲヘ介侯ヒ生帰ヲ通ヲ歩ヲ
敵士金児一小隊ヒ松澤ヲヒヘ敵
松澤村放火ヒ逃去ヲ落長ヒ若戦ヲ勢

備宮参初発致動き各所の陣々昼夜斥候巡邏夜を籠て大砲
守備す此時大砲元込一門大砲一門其外弾薬糸
等作候か賊杤尾口村松口両道より田之
大雨之内昼夜不寝之野陣守備実に労苦上
山口薩長兎稜夜中敵ハ不意砲声ニ驚き
両金児組斥候生ノ内賊赤澤峠之方ニ来
番兵金児一小隊本道ヲ進ミ并敗報知有之故速ニ進ミ関之
之村ニ人足見張ノ註進ニ付薩長ニ兎稜
七ツ時頃大勢見ラシテ赤澤峠之方ヨリ追下来
并坐ス両翼峠左右ノ山ヨリ進討者ニ付
番兵金児一小隊本道ヲ進ミ并敗報知有之故速ニ進ミ関之
声ヲ上ケ進撃ニ付砲ヲ東ニ向テ上并砲ヲ賊敗走駒込村之方ヘ逃

ル駒込村迄追撃シ追留ル両翼之人数ハ隊ヲ外先鋒ニ追ヨリ故サハひらく
ル故ノ砲ヲ右ヨリ賊討人生捕ル村松ニ定着ス薩長ヲ
引揚ル時ヨリ俄ニ雨沢澤迄引揚ル誠ニ大ニ勝利ノ事ニ候
殘リ戦士見附引揚ル夜明ル故下陣ノ着朝飯食ス今朝ノ時頃
薩長ノ人数内町ヨリ杤ノ峠ノ小栗田村ヨリ戦争ハ殆ンド終ニ
ル雨人ヨリ両翼相頼ニ守ル故出ル兵ハ入口山手両所ニ番ヲ守備ノ
様ニ敵ハ向ノ峠ニ人数出ル故見附ノ後ヨリ賊敗小栗田故犬ヲ出村ヨリ方
ヨリ迫ル故追撃ス賊敗走逃去ル故犬ヲ初メ諸軍ヲ終ニ賊逃去ル官軍
大勝利ニ而諸戦士数日ノ労ヲ故八番戦士ヲ交代ニ長岡ヨリ来ル七日昼ノ時過
見附出立ノ頃着下陣ニ至ル陣長ハ番頭ヲ初メ下ノ士児組吉村作左

交代同日長岡ヨリ引揚ノ為メ兵ヲ率ヒ通ス

一 兎角万事勝ノ心ヲ以テ

一 当六日ヨリ之ヲ全ク和戦両様ノ心ヲ以テ

五月 海田 岡山ニテ

近日小諸屋城ヲ挿テ脱走ノ旅士ノ言アリ 又村上老侯病気ニテ寄進ノ後音信ヲ絶キ

全ク其家祚藤新蔵従ヒ従テ仮令十人ヲ以テ十五人之我兵隊ニ加ヘ指出サシ勤

王ヲ実ニ表セラレンノ志ヲ説名後俄ニ岩村田行手ヲ以テ人数引揚レタリ故

ニ会津ノ応答数次ノ如ク先使ヲ長岡ニ

江坂ヨリ久永半兵衛来ル 此人ハ三條住ノ上下男女二百余人之ヲ云

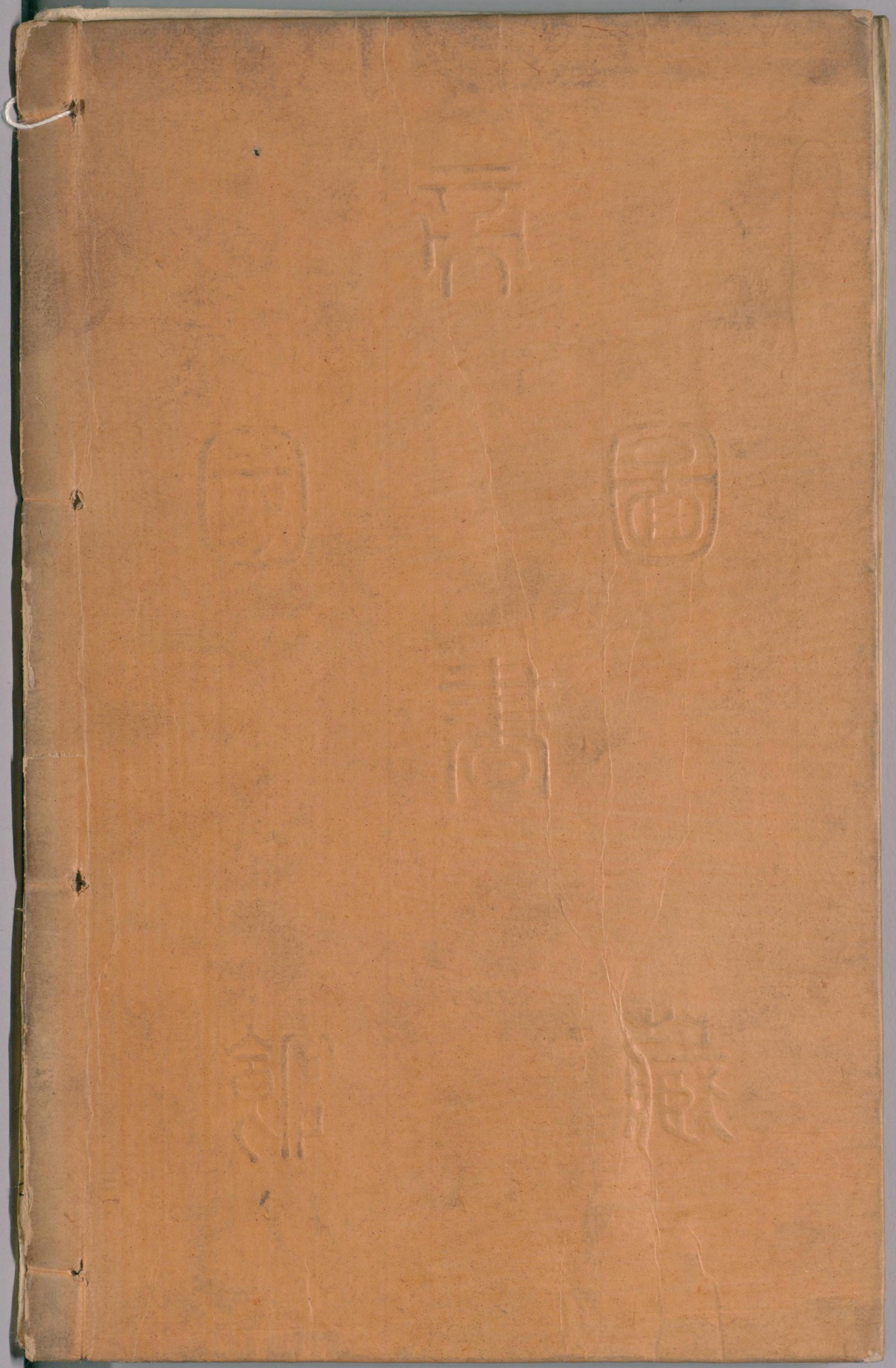
此ヒ我徴章ヲ以テ三條村ニ行ク次第人ハ一人モ殺ス事ナク云

836
209
3

文化四丁卯年引移ス文政四辛巳年通ス引移ス上限長谷川善

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用